

# Canon EX AUTO

使用説明書





## ごあいさつ

このたびは、キヤノン EX AUTO をお選びくださいました。まことにありがとうございます。

キヤノン EX AUTO は、最新の技術と創意でまとめあげた完全自動の一眼レフ EE カメラです。

性能、操作性、ともに抜群です。ご家庭はもとより、研究に、旅行に十分にご活用ください。

### ご使用のはじめに

本使用書は、簡単にお使いいただけるように内容を大きく二つに分けて編集してあります。

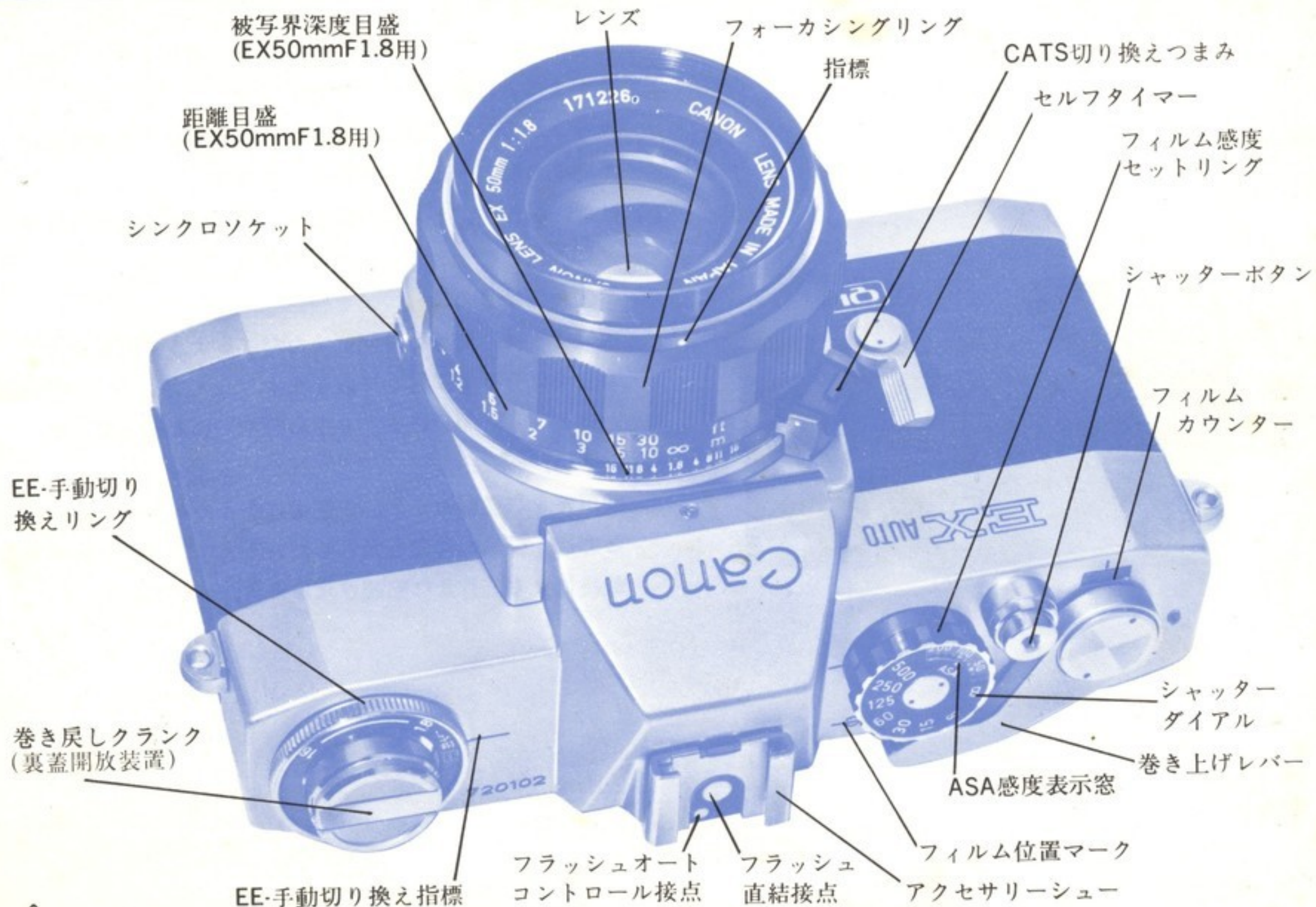
キヤノン EX AUTO を、お手にして、順を追ってご覧ください。

使用書をご理解のうえ、ご使用になるのと、ならないのとは、製品の寿命も大きくかわります。ですから必ず最終頁まで、丹念に熟読されるよう、お勧めいたします。

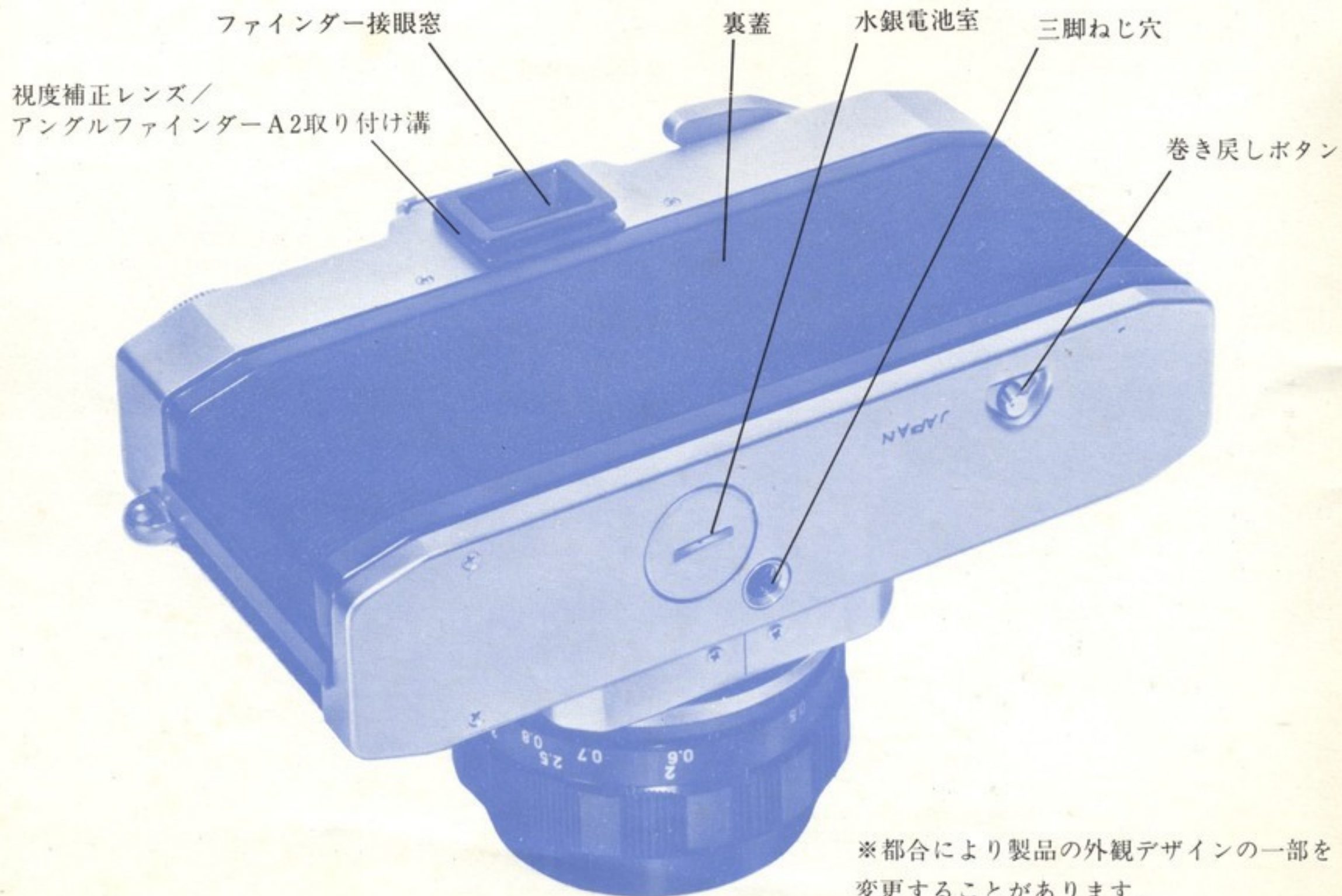




# 各部名称



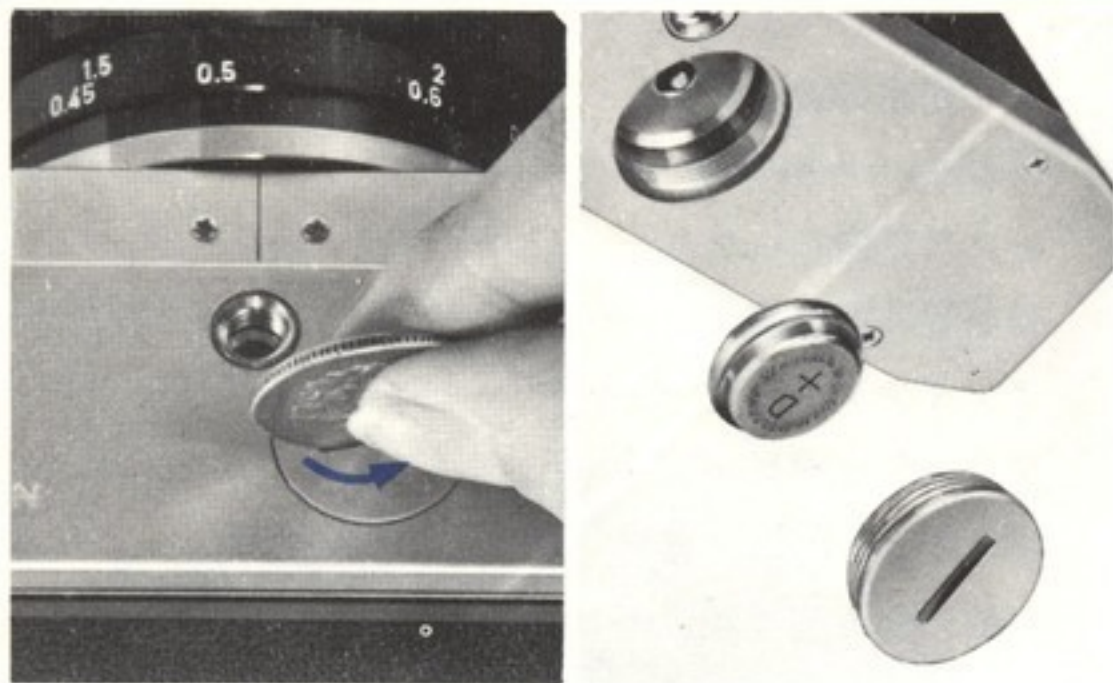




# 目次

撮影の前に.....	5	EE 撮影の連動範囲.....	17
別封の水銀電池をカメラに入れましょう		EE撮影の連動範囲 .....	18
フィルムをつめてください		レンズ交換のしかた.....	19
フィルムの感度を合わせます.....	6	被写界深度目盛.....	21
シャッタースピードを選びます.....	7	ファインダー.....	22
EE 一手動切り換えリングをEEにセットしましょう		フラッシュ撮影.....	23
写す対象〈被写体〉をファインダーの中で		フラッシュオート撮影	
正しくとらえましょう.....	8	一般の発光器を用いたフラッシュ撮影 .....	25
ファインダー内のメーター指針の位置を		フィルム位置マーク.....	26
確かめてください		水銀電池の種類と取り扱い.....	26
シャッターボタンを押します.....	9	セルフタイマー撮影.....	27
撮影完了後.....	9	赤外撮影.....	27
フィルムの巻き戻し		二重露出のしかた.....	28
バッテリーの点検.....	10	キヤノンフィルターのおすすめ.....	29
フィルムの正しいつめ方.....	11	カメラの保管と手入れ.....	30
フィルム感度のセット.....	12	EX AUTOの主要性能.....	31
EE 撮影と手動絞り撮影 .....	13	アクセサリー.....	32
シャッター.....	14		
絞りと露光量.....	15		
シャッターと絞りとミラーの関係.....	16		



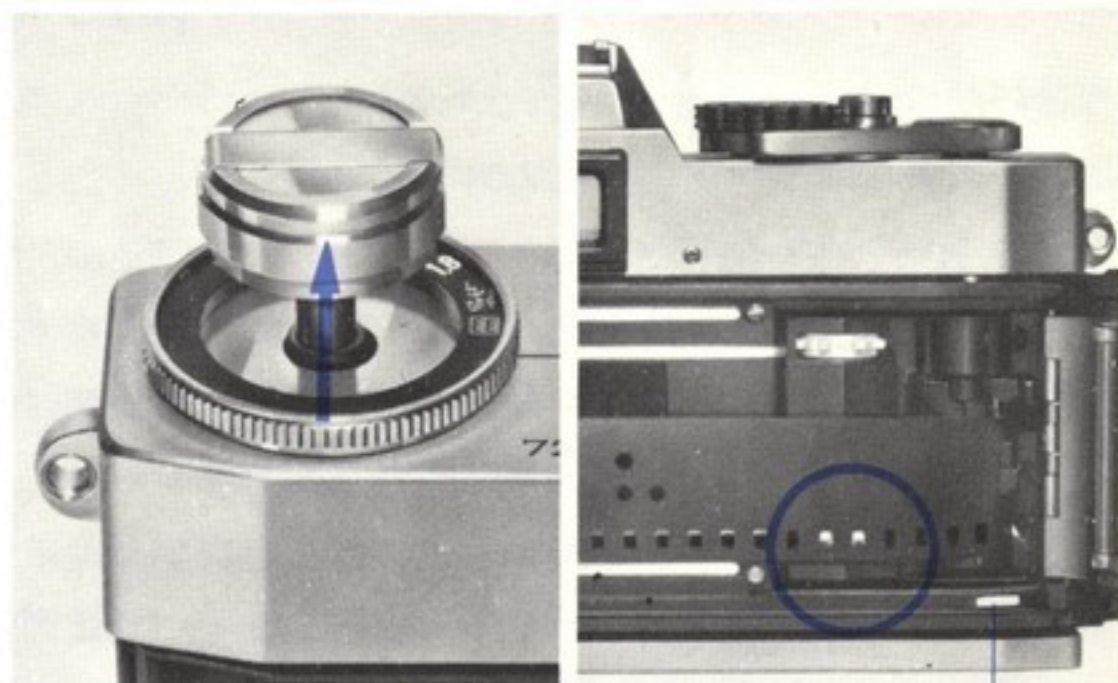


別封の水銀電池をカメラに入れましょう

- 1 水銀電池室蓋を、硬貨を使って左に回し、はずします。
- 2 蓋の裏に図示されているように、電池の方向を間違えないように入れ、蓋を閉じます。

ご注意

- 電池の接点<上下>を指先などで汚さないように注意してください。汗や指紋をつけたまま入れますと接触不良でメーターが動かないことがあります。またカメラ側の電気接点が腐蝕されていたんでしまうおそれもあります。汚れた場合は、乾いた布で拭き取ってください。
- 上下を逆にしないでください。

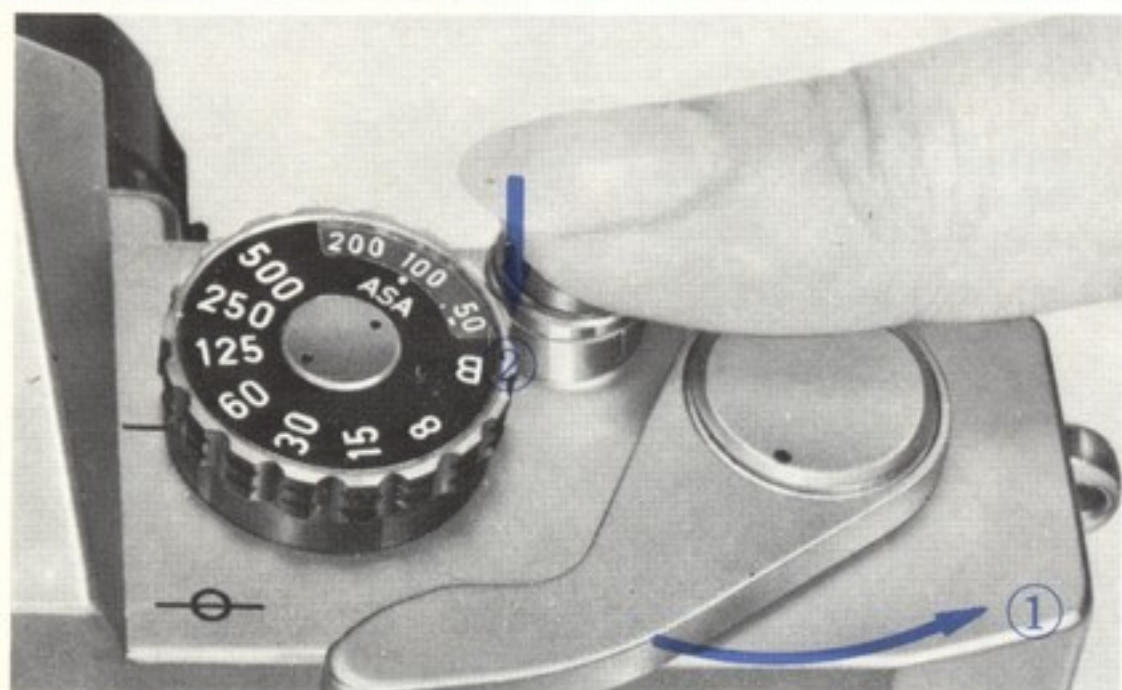


フィルムをつめてください

赤マーク

- 1 巻き戻しクランクを引き上げ、さらに強く引きまします。
- 2 裏蓋がポンと開きます。フィルム室にフィルムを入れ、<軸が長くでている方を下に>
- 3 巻き戻しクランクを元に戻します。
- 4 フィルムの先<リーダー部分>を、赤マークの上に乗せます。裏蓋を半ば閉じると中蓋がフィルムをおさえます。そこで小窓からフィルムが歯(スプロケット)に正しくかかっているかどうか確認します。
- 5 裏蓋を押し付けて閉じます。

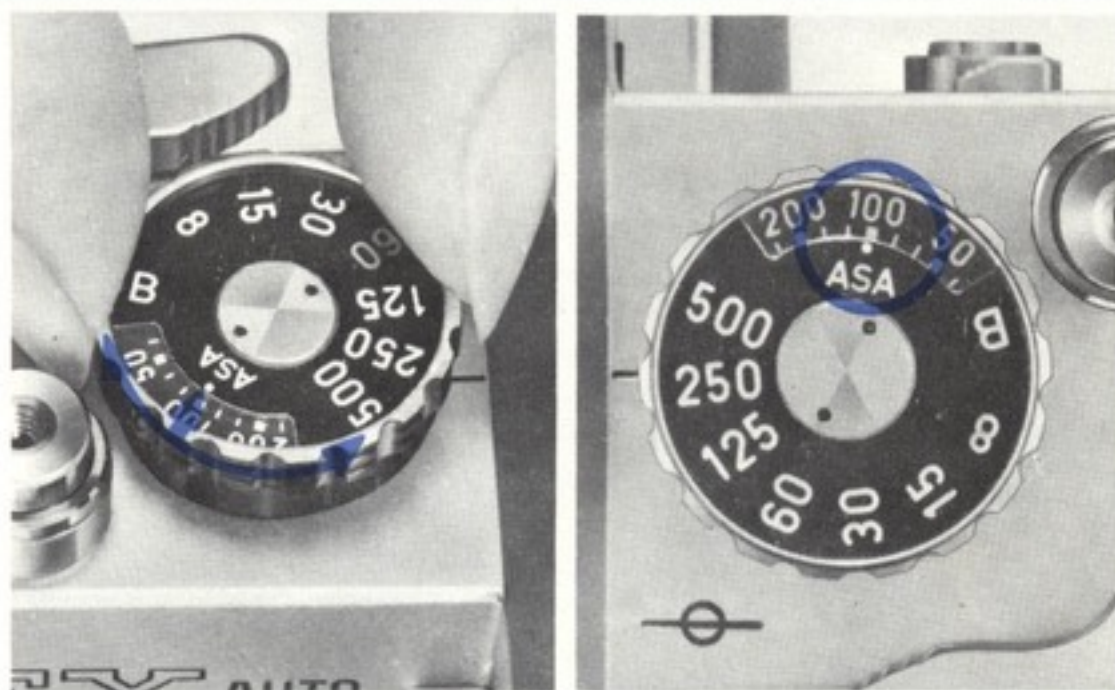




**6** 巻き上げレバーを巻き上げ、シャッターを押す操作を3回繰り返します。

●この操作を空写しといい、フィルムがすでに光に感じてしまっている部分を、あらかじめ巻き上げておく必要があるからです。

**7** フィルムカウンターのマークは、Sから0になり、次に巻き上げると撮影可能な1枚目を表わす(・)に進みます。

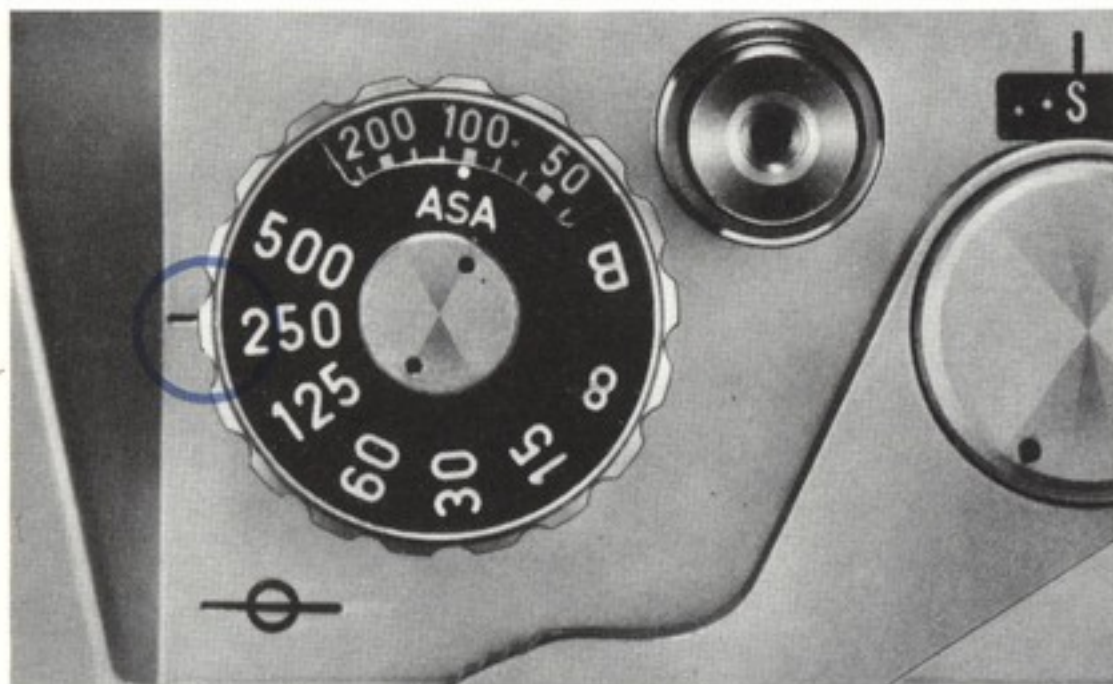


フィルムの感度を合わせます

**1** シャッターダイヤル外周の、感度セットリングをつまんで持ちあげて回し、フィルムの感度を指標に合わせ、落とし込みます。

●フィルムの感度は、外装箱か説明書に明示されています。





### シャッタースピードを選びます

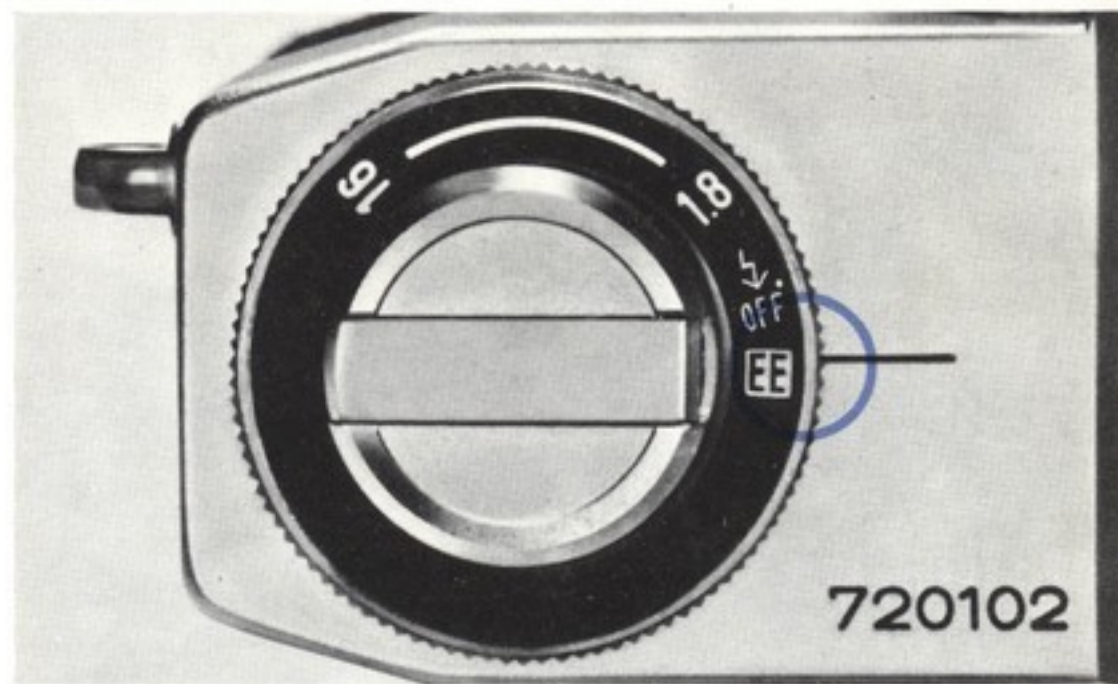
- 1 シャッターダイヤルを回して、数値を指標に合わせます。

●シャッタースピードの目盛は1/500秒、1/8秒などという場合の分母で目盛られています。

●数値は大きくなるにしたがい速くなります。したがって、動きの速いものとか晴天下では1/250秒とか1/500秒が適当です。

●手持ちでブレなく写せる限界は、大体1/60秒までです。

それ以下の遅いシャッタースピードの場合には、必ず三脚をご使用ください。



### EE-手動切り換えリングをEEにセットしましょう

- 1 EE-手動切り換えリングを回して、EEマークを指標に合わせます。

### レンズキャップをはずします

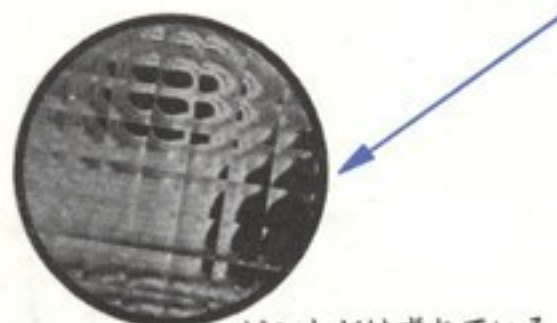
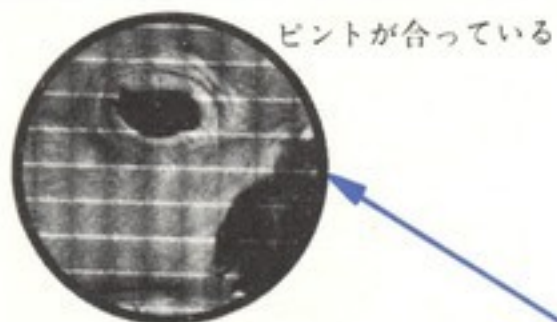
ファインダーを覗きながらピントを合わせてください

- 1 ファインダーを覗くと、画面の中央に円型のスクリーンが見えます。

これはプリズムスクリーンと呼ばれる距離計で、ピントが正しく合っているときは、写す対象が鮮明に見え、合っていないときは、ぼけて見えます。

- 2 ピントを合わせるには、レンズのフォーカシングリングを回転させます。





ピントが合っている

ピントがはずれている

●ファインダーを覗きながら、徐々にフォーカシングリングを回し、ピントを正しく合わせてください。

写す対象<被写体>をファインダーの中で正しくとらえましょう

1 ファインダーの中で見えるものは、すべてそのままフィルムに写ってしまいます。ですから、写す対象の主要部分を画面のどの辺に置くか、または画面に入れたくない部分は、どの辺かをよく考えて画面を決めましょう。

●画面の決め方を構図の設定といい、写真の出来、不出来を大きく左右しますから、シャッターを切る前に、もっとも適切と感じられる構図に作りあげましょう。

〔使用レンズによる適正範囲〕



ファインダー内のメーター指針の位置を確かめてください

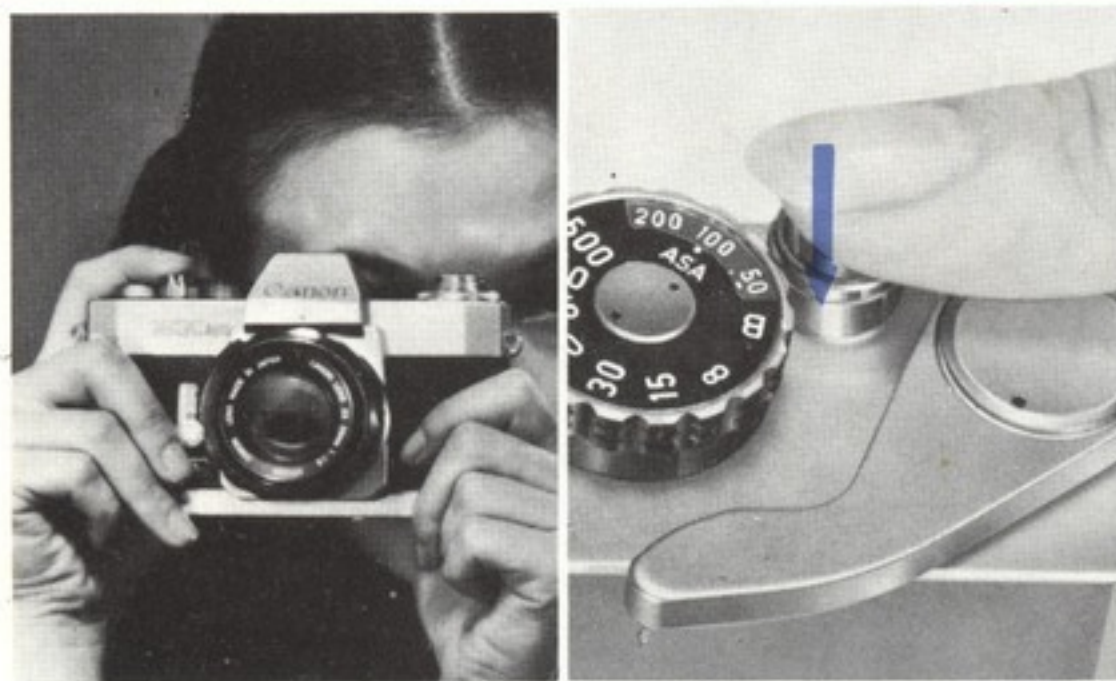
1 ファインダーのメーター指針は、明るさによって、上下に動きます。

メーターの指針が、適正露出範囲<絞り値>内にあるときは、つねに正しい露出が自動的に決まります。

●上方に振り切れ、不適正窓に入ってしまった場合は、被写体が明る過ぎる条件で、正しい露出の得られないことを意味しています。したがって、この場合にはシャッタースピードを速い側へセットし直します。

●逆に下方に落ち、下の不適正窓に入っている場合は、シャッタースピードを遅い方向へ、セットし直します。

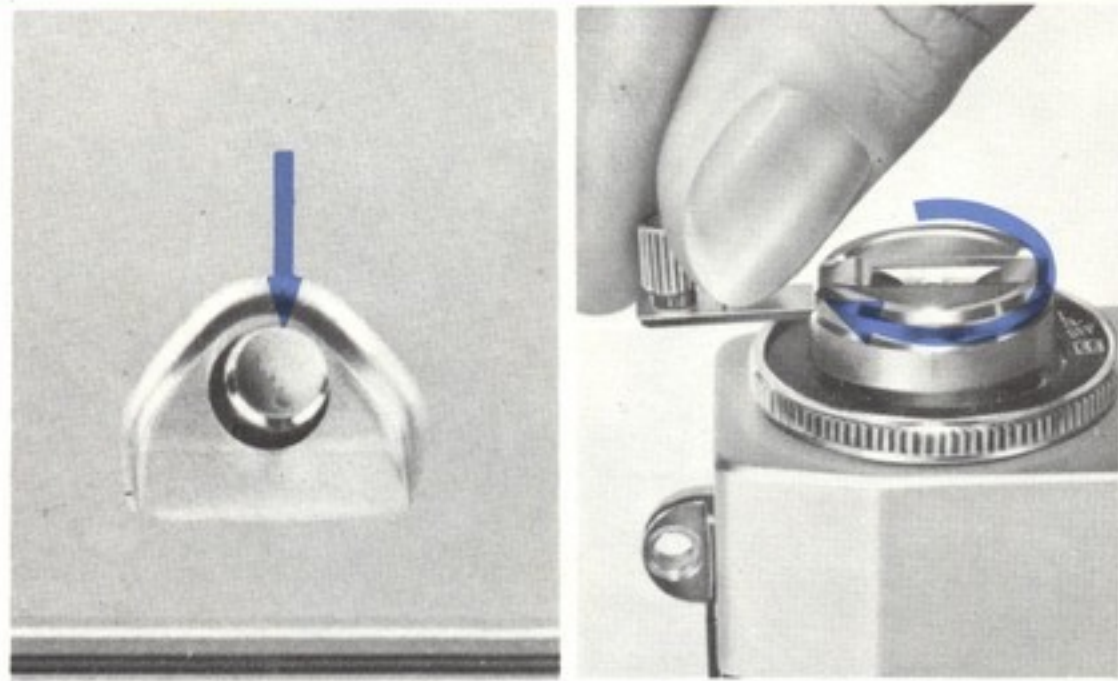




### シャッターボタンを押します

**1** カメラを正しく構えたならば、シャッターボタンをなるべく人差し指の腹の部分で押すようにしましょう。

●シャッターを切る瞬間カメラが動き、画面ブレを起すことをカメラブレといいます。正しくカメラを持ち、カメラを額にあて、片方のひじをピッタリ体に付けるようにして、静かにシャッターボタンを押すとカメラブレをなくすことができます。



### フィルムの巻き戻し

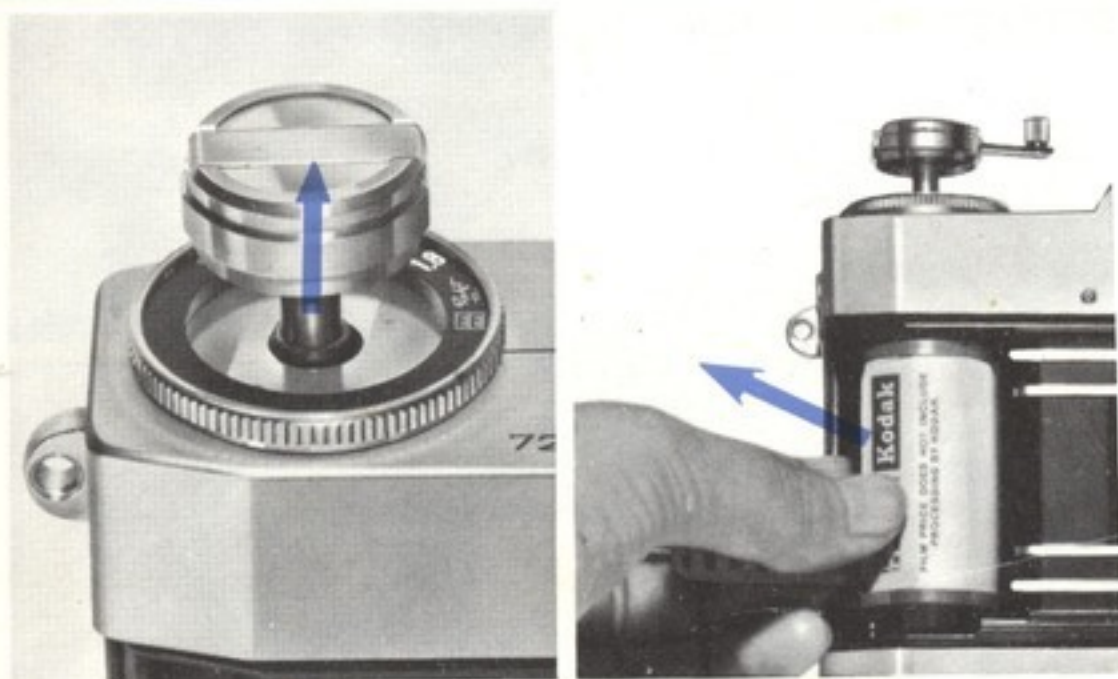
フィルム外箱に表示してある枚数分の撮影が終ると巻き上げができなくなります。

そこで、カメラの中には、裸のまま巻き取られているフィルムがあるわけですから、パトローネの中に巻き戻さねばなりません。

- 1** カメラ底蓋の巻き戻しボタンを押し込みましょう。
- 2** クランクを起し、矢印方向に回し、フィルムをパトローネに戻します。

巻き戻し操作は、巻き戻しボタンの回転を確かめながらおこないます。巻き戻しボタンの回転が止まったならば





〈抵抗が軽くなる〉直ちに巻き戻しを止めます。

**3** 巻き戻しクランクを引き上げ、さらに強く引き裏蓋をあけます。

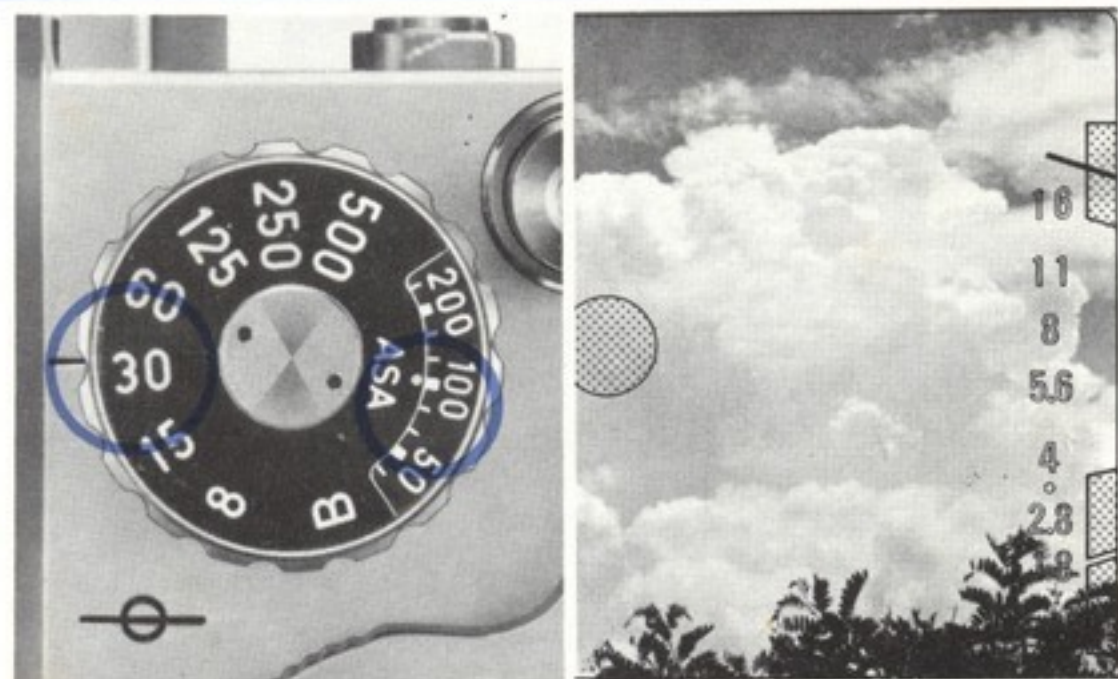
**4** 巻き戻し済みのパトローネを取り出します。

●巻き戻しボタンは、いったん押し込んだならば指を離してもさしつかえありません。

レバーを巻き上げると自動的にボタンは元に戻ります。

**ご注意**

●巻き戻しボタンの回転が止まっているにもかかわらず、巻き戻しを続けると、フィルムは完全にパトローネの中に巻き込まれてしまい、取り出し後、フィルム口から光が入ることがあります。ご注意ください。

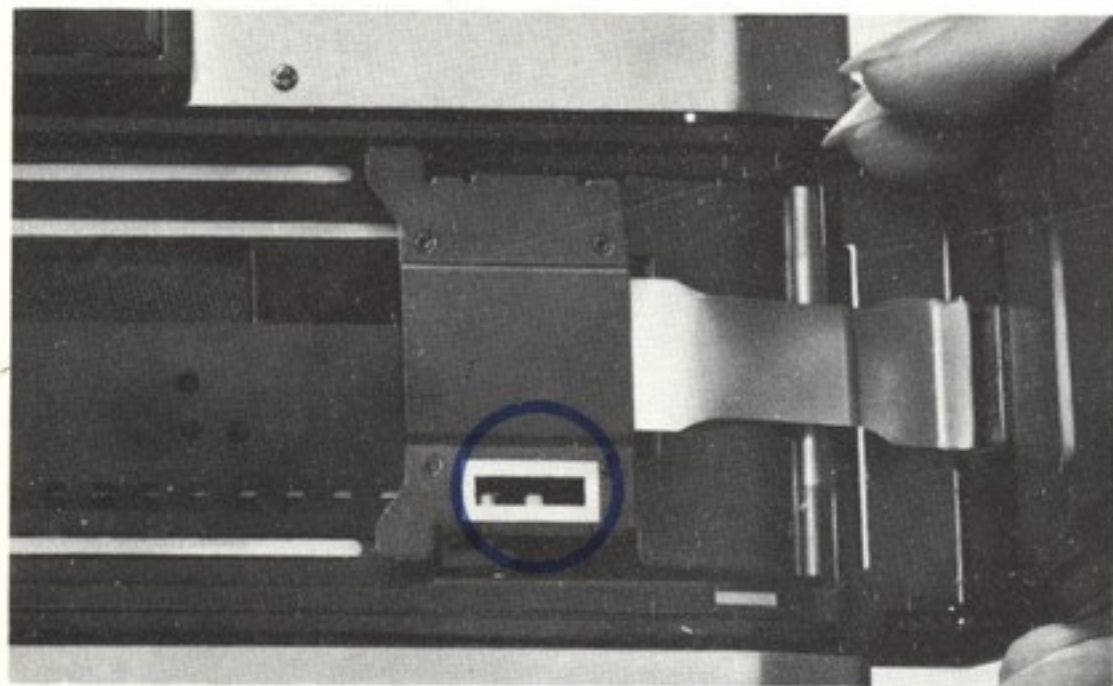


キヤノン EX AUTO には、水銀電池のチェッカーは組み込まれていませんが、電圧の良否を確かめるには目安として、次の方法があります。

- 1** EE—手動切り換えリングを EE にセットし、
- 2** ASA感度を100に、シャッタースピードを1/30秒にセットします。
- 3** ファインダーを覗きながら、カメラを明るい空に向けます。

メーター指針が、F 16 側に振り切れ、数秒経過後、徐々に指針が F 1.8 側に下降してくる場合は、新電池と交換の要があり、振り切れた状態で静止の場合は電圧量が十分であることを意味します。

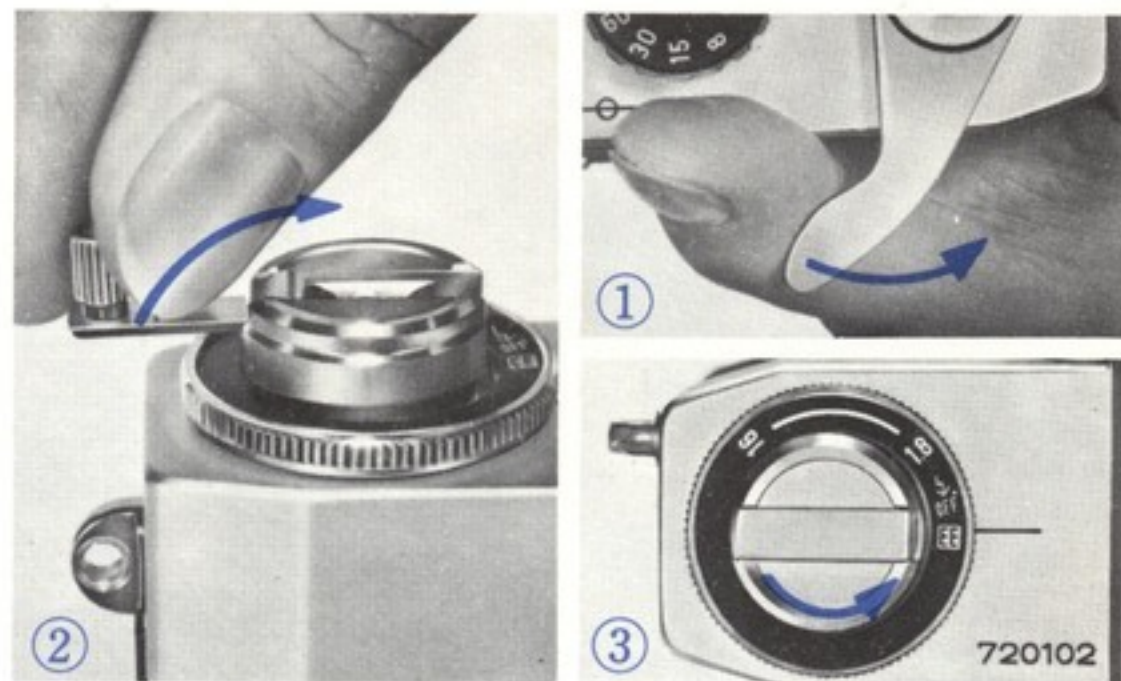




35mm カメラのフィルム送りは、どのカメラでも、スプール<巻き取り軸>の回転力を利用しておこなうのではなく、スプロケットの歯が正しくフィルムのパーフォレーションに噛み合って、はじめて送られます。

キヤノン EX AUTO の QL 機構の場合にも同様で、QL 軸の上にフィルムを乗せ、パーフォレーションがスプロケットの歯からはずれていてはフィルムは送られず、空回りしてしまいます。そこで、フィルムを QL 機構に乗せる際、まず、スプロケットの歯にパーフォレーションが正確にかかっているか、どうかを確かめることが必要です。

- 1 フィルムをつめ、裏蓋を半ば閉じると QL カバーがフィルムをおさえ、スプロケット窓から、フィ



ルムのかかり具合を確認できます。

- 2 裏蓋を押し付けて、閉じます。

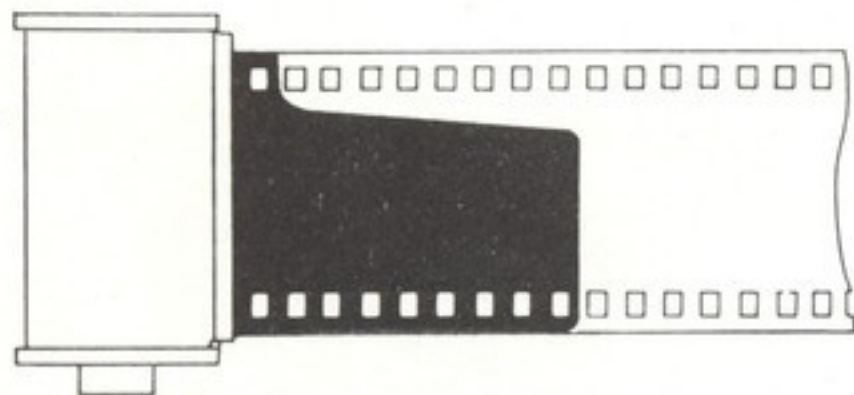
そして、レバーを巻き上げてシャッターを切り、2度ほど同じ操作を繰り返したのち、巻き戻しクランクを巻き戻し方向に軽く回します。抵抗を感じたならば、直ちに止め、

- 3 ふたたびレバーを巻き上げてみましょう。

巻き上げ操作中、巻き戻しクランクがただちに逆回転をはじめます。

逆回転は正しくフィルムが送られていることを意味します。もしそうでない場合は、フィルムをいったん巻き戻してつめ直さなければなりません。





**ご注意**

●フィルムの出し入れは直射日光下を避け、日陰でおこなってください。

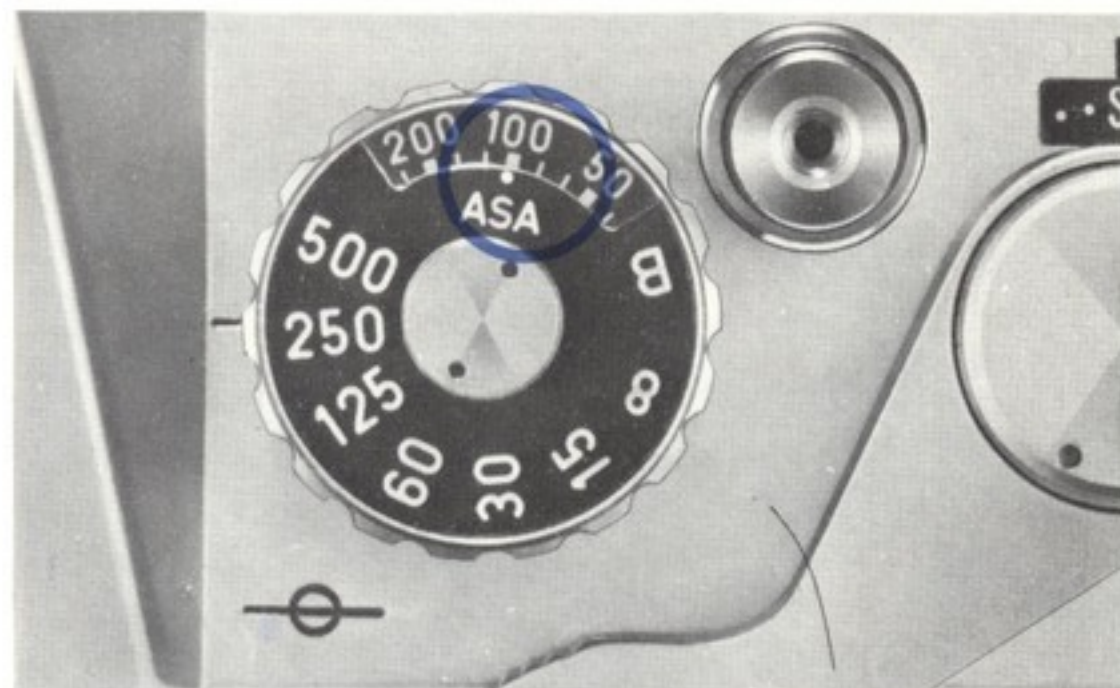
もし日陰のない場合は、身体の陰でおこなってください。

●暗室装填用の長尺フィルムを切ってご使用の場合は、リーダー部の先を、必ず巻き取り方向にカーリング〈巻きぐせ〉をつけ、上図のように切断してください。

**●フィルム感度目盛**

ASA 25 ・ ・ 50 ・ ・ 100 ・ ・ 200 ・ ・ 400 ・ ・ 800

(32)(40) (64)(80) (125)(160) (250)(320) (500)(640)

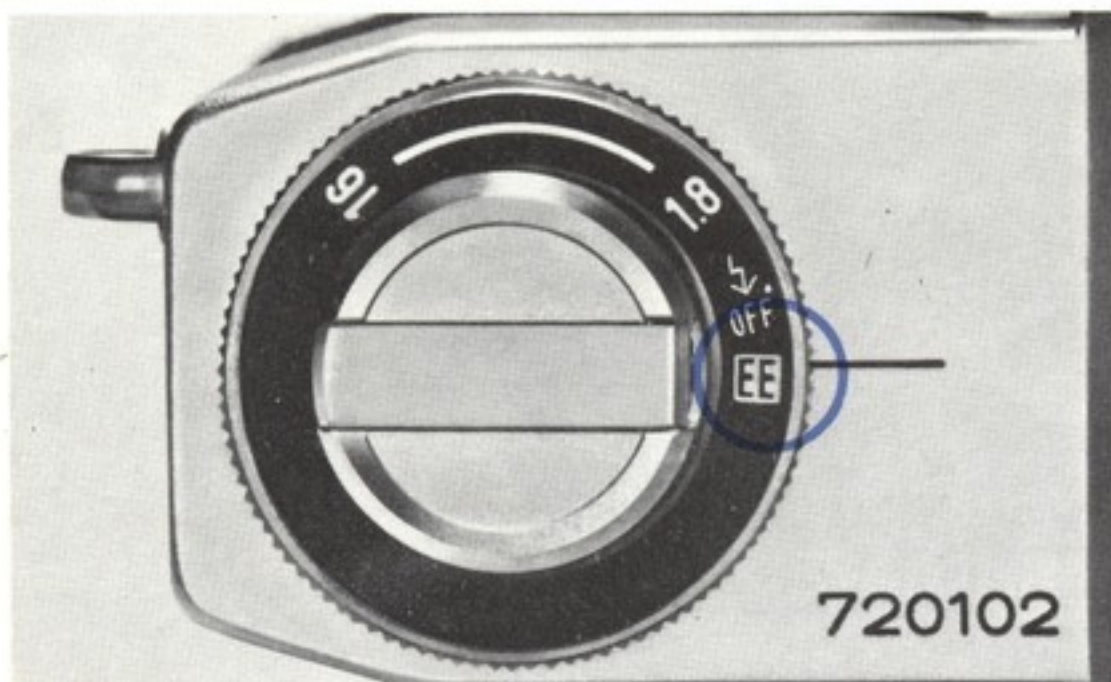


フィルム感度は、フィルムをつめ終ったならば、すぐにセットしましょう。

これを忘れてしまいますと、EE機構を正しく作動させることが不可能で、適正露出は得られなくなります。

フィルムは感度の数値が大きくなるほど、光に感じやすく小さくなるにしたがい、にぶくなります。キヤノン EX AUTO は、市販されているフィルムのすべてが使える感度セットの機構を備えています。



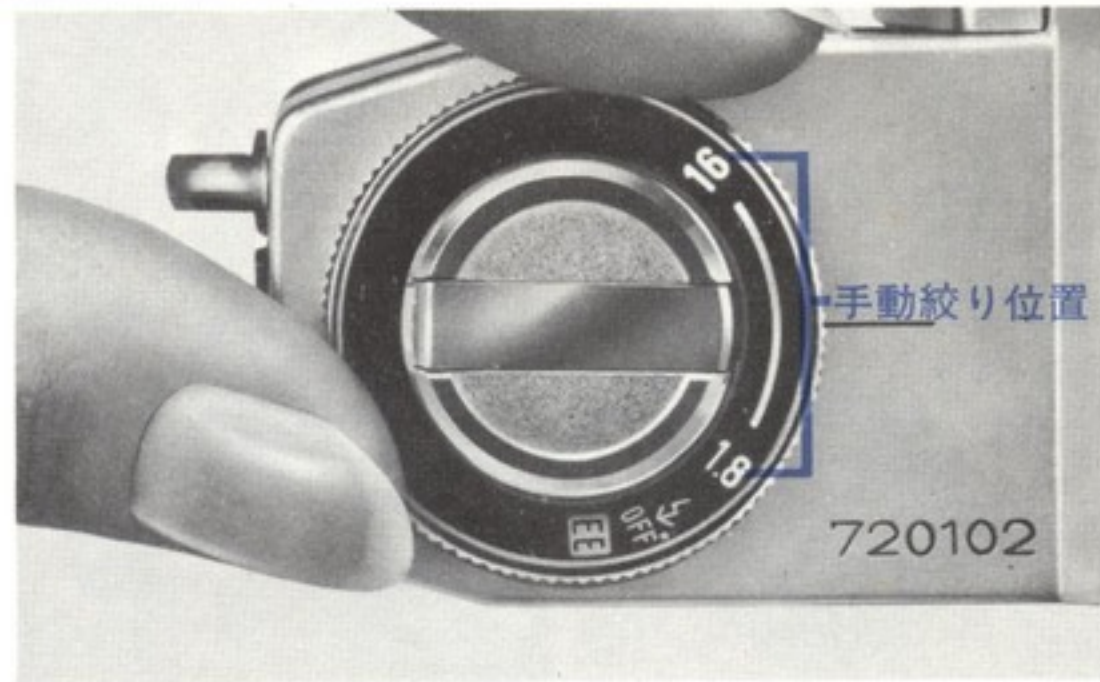


キャノン EX AUTO は、レンズを通る光を直接測る TTL 式の EE 機構を備えています。

しかも画面の中央部を重点的に、かつ余分な天空光を自然に遮断する優れた測光性能をもち、画面の階調は被写体に忠実です。

したがって通常の場合には、露出に対する操作をいっさい必要としない EE 撮影をおすすめします。

● EE 撮影の手順は、6 頁から 8 頁までを参照してください。



撮影意図によって、任意の絞り値を選んで撮影したいとか、B (バルブ) 露出を利用して、長時間露出をおこなう場合には、EE を解除する必要があります。

**1** ファインダーを覗きながら EE - 手動切り換えリングを、16 側に回すと EE 回路が切れ、手動絞り位置になります。

メーター指針が動き、絞り値をさしますから任意のところまで止めれば、その絞り値での手動絞り撮影がおこなえます。

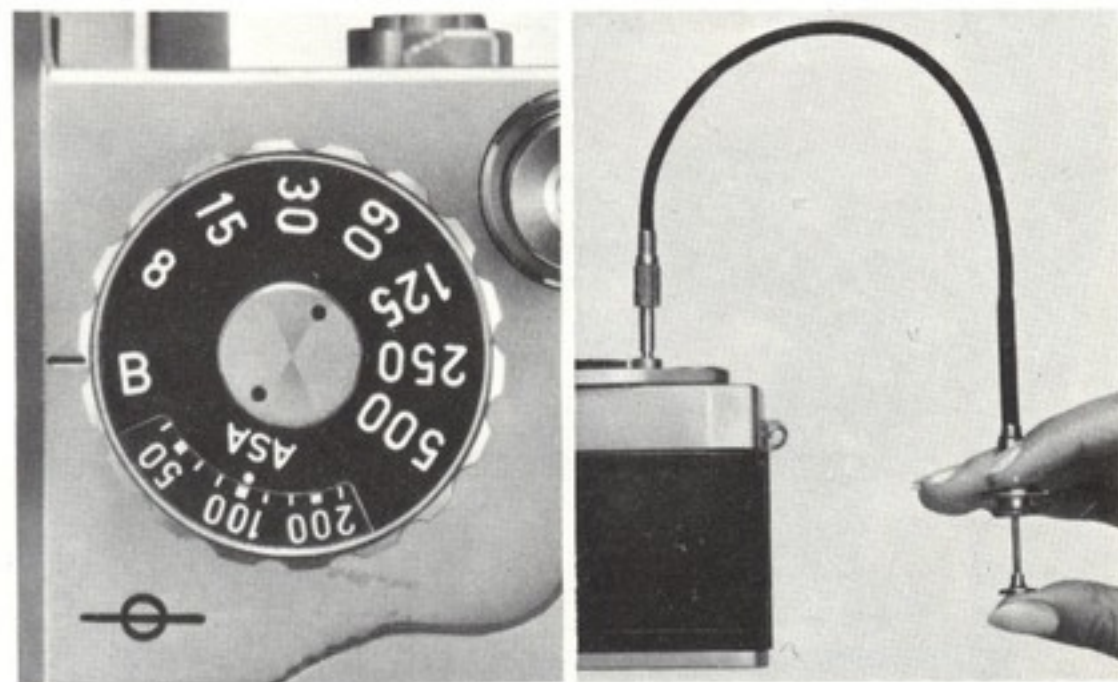
● 手動絞り撮影の場合の絞りもつねに開放で、撮影時のみ絞られる方式です。





したがってファインダー内で、任意の絞りを決めたときにも、ファインダーの明るさは変化しません。

●手動絞りは、一般的な手動絞り撮影のほか、フラッシュ撮影の際、ガイドナンバーによって適正絞りを算出し、セットする場合に利用されます。



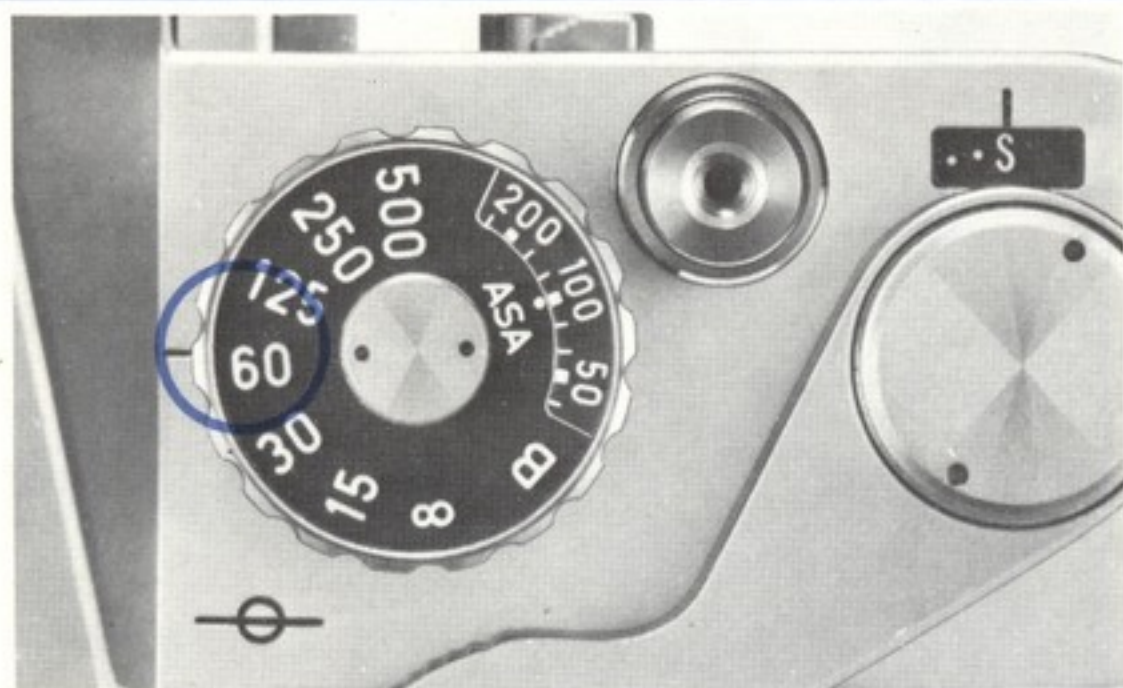
シャッターを開いて、フィルムに光をあたえることを露出といいます。

シャッターと絞りは、この露出の調節をするもので、シャッターは時間の調節、絞りは光の量をコントロールします。

シャッタースピードは、倍数の速度で目盛りされています。ダイヤル上には、500 250 125………8 Bの表示目盛りがありますが、1/500秒、1/250秒、1/125秒………1/8秒、そしてバルブをそれぞれ意味しています。

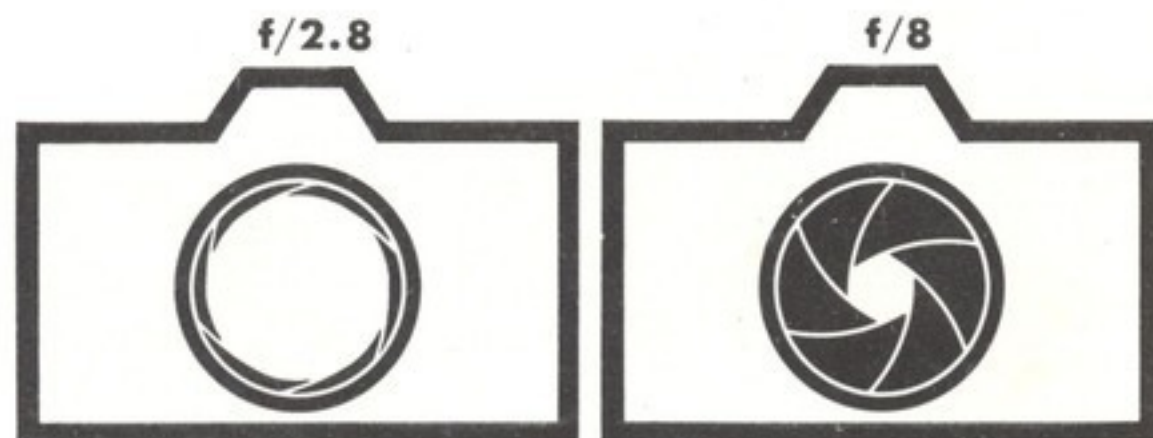
●Bはバルブといい、シャッターボタンを押している間シャッター幕が開いている長時間露出目盛りです。バルブ撮影の際はレリーズを使用してください。





- 60 (1/60 秒) が橙色に色わけされているのは、ストロボ (キヤノライト D などのエレクトロニック フラッシュ) 用の同調速度であることを意味します。
- シャッタースピードの変更は、フィルムの巻き上げの前後、どちらでもさしつかえありません。
- シャッタースピード目盛の中間は、使用できません。

光の量は 1 : 1/8



絞りはレンズを通過する光の量を調節します。数値が大きくなるほどレンズを通過してフィルム面に達する光量は少なくなり、同時にレンズの被写界深度は増大します。  
 <21頁被写界深度の項参照>

絞り値と光量との比を、露光比といい、通常は1目盛数値が多くなると、光量は1/2に減少します。

F/2 を1とした場合絞り値と光量は、次のようになります。

絞り値

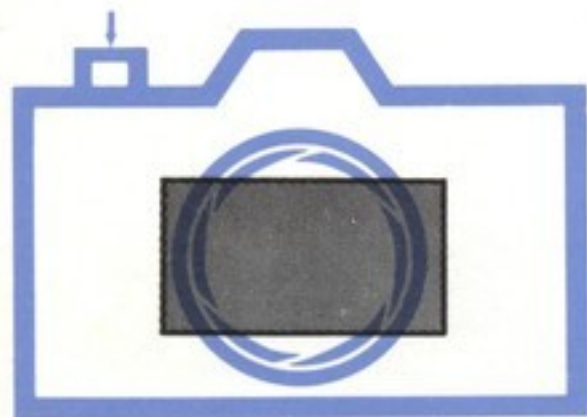
1.8 2 2.8 3.5 4 5.6 8 11 16

露光比

1.25 1 1/2 1/3 1/4 1/8 1/16 1/32 1/64



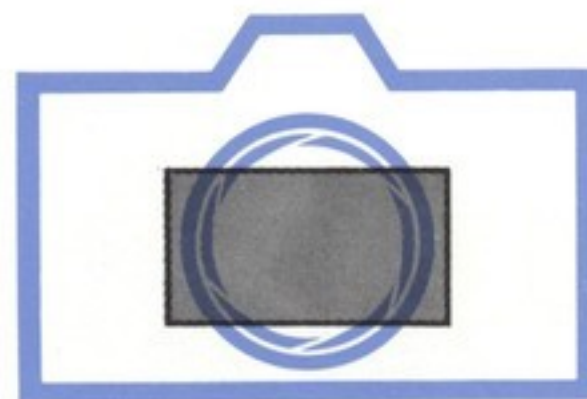
# ラーと自動絞りとシャッターの関係



シャッターボタンを押す



シャッタースピードに対応する絞り値まで自動的に絞られる



絞りは開放状態に戻る



ミラーが上がり始める



ミラーが上がる



ミラーはもとの位置に復帰





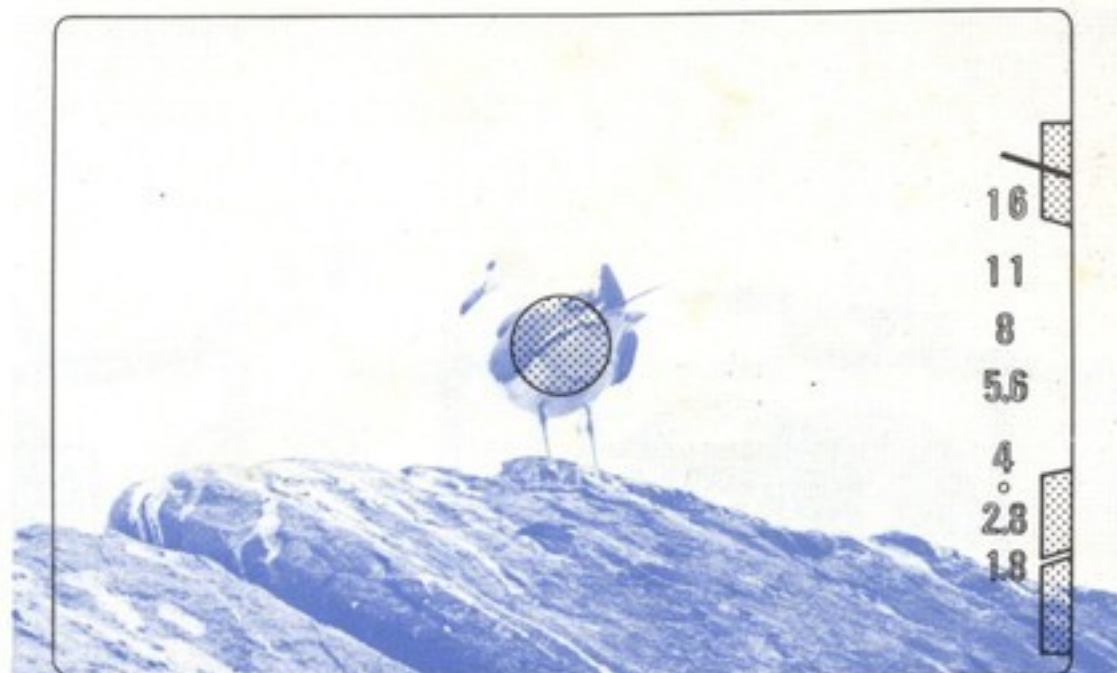
EE-手動切り換えリングをEEにセットしたときの、撮影可能の範囲をいいます。

表は、いずれも開放から最小絞りまで、完全に連動する条件で表わしてあります。

●メーター指針が下方に位置し、警告マーク内にあるときは、次の条件

- 〈被写体が極端に暗い〉
- 〈シャッタースピードがはやすぎる〉
- 〈フィルム感度が低い〉

が考えられますが、これらの条件を補正しても、なお警告マーク内に指針があるときは、連動範囲外の条件であるといえましょう。



●メーター指針が上方に振り切れ、警告マーク内にあるときは、次の条件

- 〈被写体が極端に明るい〉
- 〈シャッタースピードがおそすぎる〉
- 〈フィルムの感度が高い〉

が考えられます。これらの条件を補正してもなお、メーター指針が警告マーク内にあるときは同様に連動範囲外の条件であるわけです。

●適正範囲内にメーター指針がある条件で、シャッタースピードを操作して範囲外に条件が変わってしまった場合、メーター指針は急激に下方に降下します。

●シャッターダイヤルのB目盛使用による長時間露出でEE撮影はできません。



## EE撮影の連動範囲

EX50mmF 1.8, EX35mmF 3.5, EX95mmF 3.5, EX125mmF 3.5

ASA	シャッタースピード							
			1/8	1/15	1/30	1/60	1/125	1/250
25-40			1/8	1/15	1/30	1/60	1/125	1/250
50-80		1/8	1/15	1/30	1/60	1/125	1/250	1/500
100	1/8	1/15	1/30	1/60	1/125	1/250	1/500	
125-200	1/15	1/30	1/60	1/125	1/250	1/500		
250-400	1/30	1/60	1/120	1/250	1/500			
500-800	1/60	1/125	1/250	1/500				

※空欄の部分はEE撮影と連動しません





キャノン EX AUTO のレンズ交換は、主光学系の EX 50 mm F 1.8 レンズの後群光学系をカメラ側に残す、前群交換式を採用しています。

交換レンズの種類は、標準レンズのほか、広角 EX 35 mm F 3.5 ならびに望遠 EX 95mm F 3.5, EX 125 mm F 3.5 が用意されており、いずれも簡単な操作で交換することができます。

- 1 フォーカシングリング前のレンズ枠を、左に回して取りはずします。
- 2 カメラ側に残ったフォーカシングリングの無限遠マーク (∞) が指標位置にあるのを確かめ、交換すべきレンズを右に回し、ねじ込みます。



3 ねじ込んだレンズの距離リングを回して、距離目盛上の無限遠マークを、フォーカシングリング先端の距離指標 (・) に合わせます。

4 ピントの調節は、フォーカシングリングを回転させておこないますが、距離目盛は標準レンズの場合と異なり、レンズ側に目盛られていますから、フォーカシングリング先端の距離指標を基準に読み取ります。

### ご注意

●取りはずしたレンズは、ただちにレンズキャップならびにダストキャップ<底蓋>をしてください。レンズ前面および後端にきずや埃のつくのを防ぎます。



# 交換レンズと画角変化



35mm  
広角レンズ



50mm  
標準レンズ



95mm  
望遠レンズ



125mm  
望遠レンズ



50mm レンズ f/8



被写界深度目盛 <EX 50mm F 1.8 の場合>

ひとつの被写体にピントを合わせると、その被写体の前後で鮮明に写る範囲があり、これを被写界深度といいます。その範囲は絞りの大きさによって変わりますから、距離目盛に関連させて、絞り数値が目盛られています。被写界深度目盛の使い方は、たとえば3mの距離にある被写体にピントを合わせ、F8の絞りを使うとすれば、距離指標の両側にある8の目盛に対応する距離目盛、すなわち約2.3mと約4.3mとを読み取ります。



50mm レンズ f/16



そしてこの間にある被写体が鮮明であることを目盛から知るわけです。

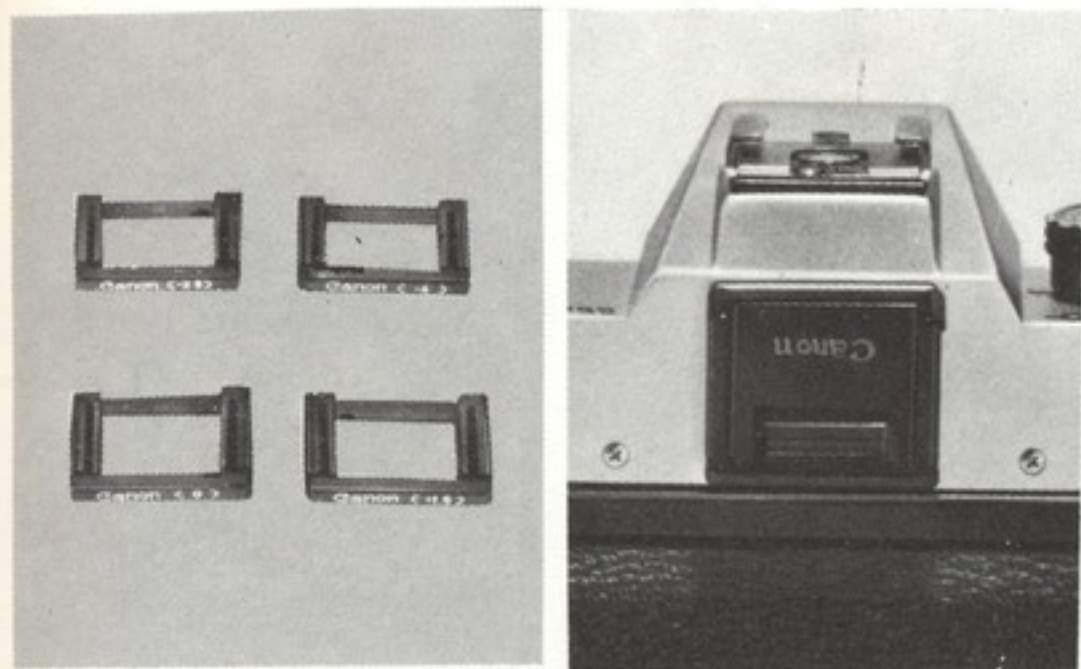
同じくF16に絞れば約1.9mから7.6mまで鮮明に写ることがわかります。

被写界深度はレンズを絞るほど、また撮影距離が遠いほど深くなり、逆の場合ほど浅くなるものです。

● キヤノン EX AUTO では手動絞りをを用いた場合にも被写界深度の確認はできません。

これは明るい視野を求めたファインダー光学系によるもので直接被写体像をとらえるからです。





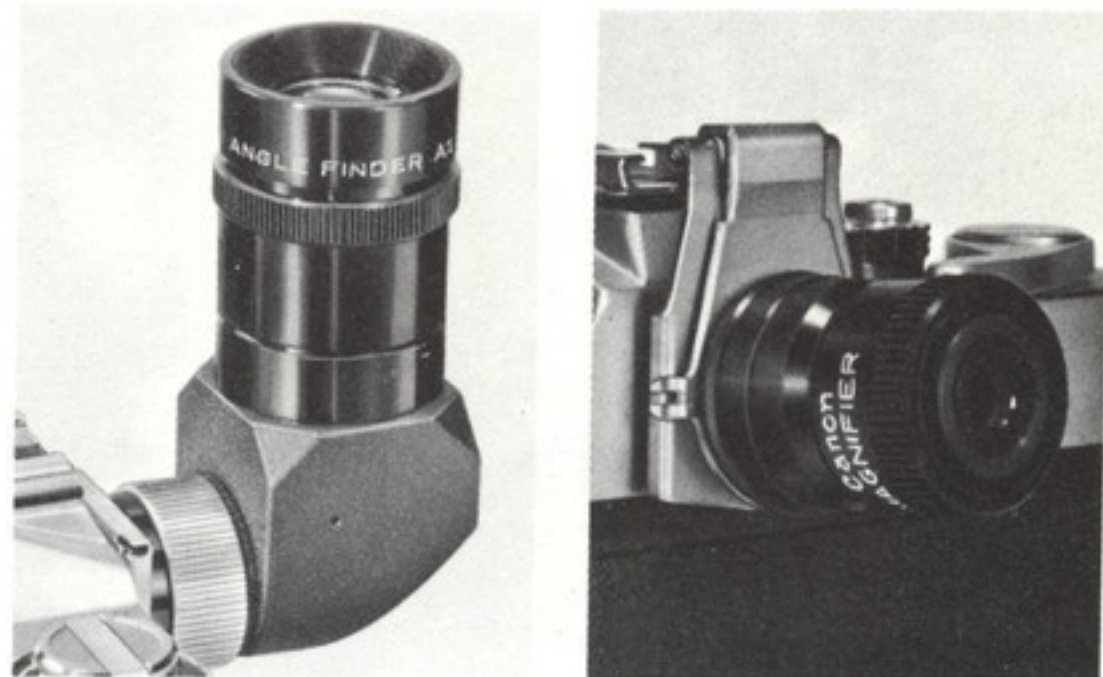
キャノン EX AUTO のファインダー光学系には、被写体のピントを結ばせるマット面がありません。

したがって、ファインダー内で眺められる視野像は、直接光学系を通して見る被写体像なわけです。光学的にはこのような方式を空中像式と呼び、明るさにおいては比類のない性能をもつものです。

●ファインダーには視度補正レンズが用意されており、これを接眼部に取り付けると近視や遠視眼の方が眼鏡なしで鮮明な被写体像を見ることができます。

+1.5 0 -2.5 -4(ジオプター)の4種

●EE撮影で、ファインダーから目をはなして撮影する



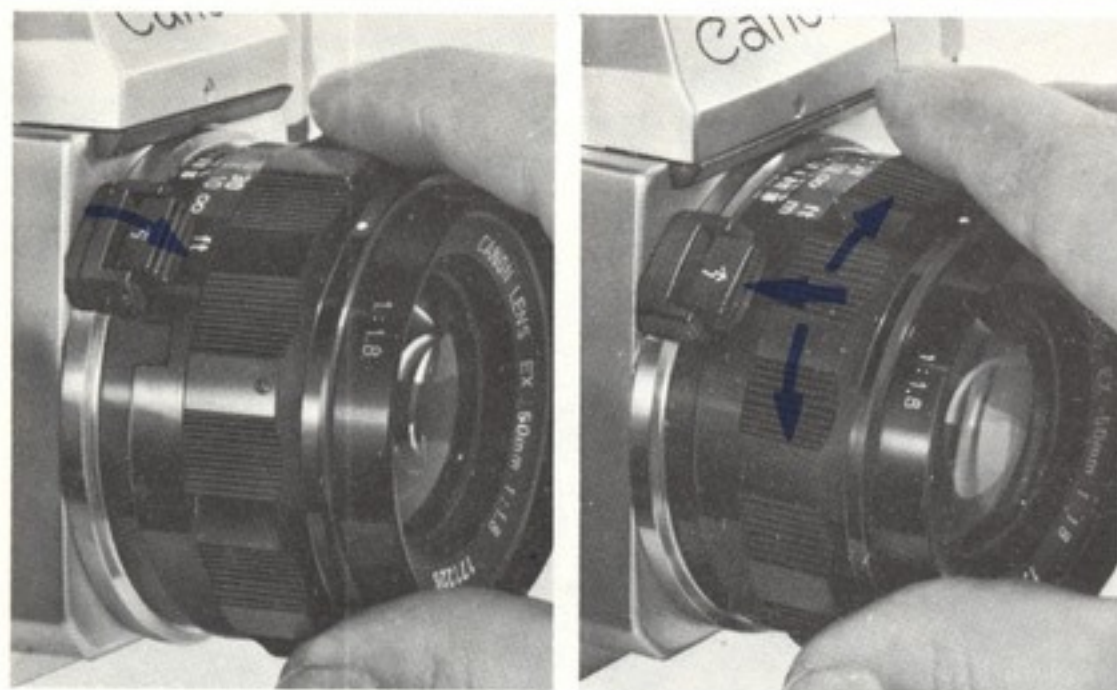
場合には、必ず感電防止カバー兼用のファインダーカバーをつけてご使用ください。ファインダーからの逆入光の影響で、適正露出が得られないことがあります。

●接眼部にはアダプターSを取りつけてアングルファインダーA2とBが取り付けられます。

上から覗けますから複写・拡大撮影などに用いると有利です。

●マグニファイヤーSは拡大観察用の直視ルーペです。上方から接眼部にさし込んで使用します。マグニファイヤーを上方にはね上げると視野全体を見ることができます。



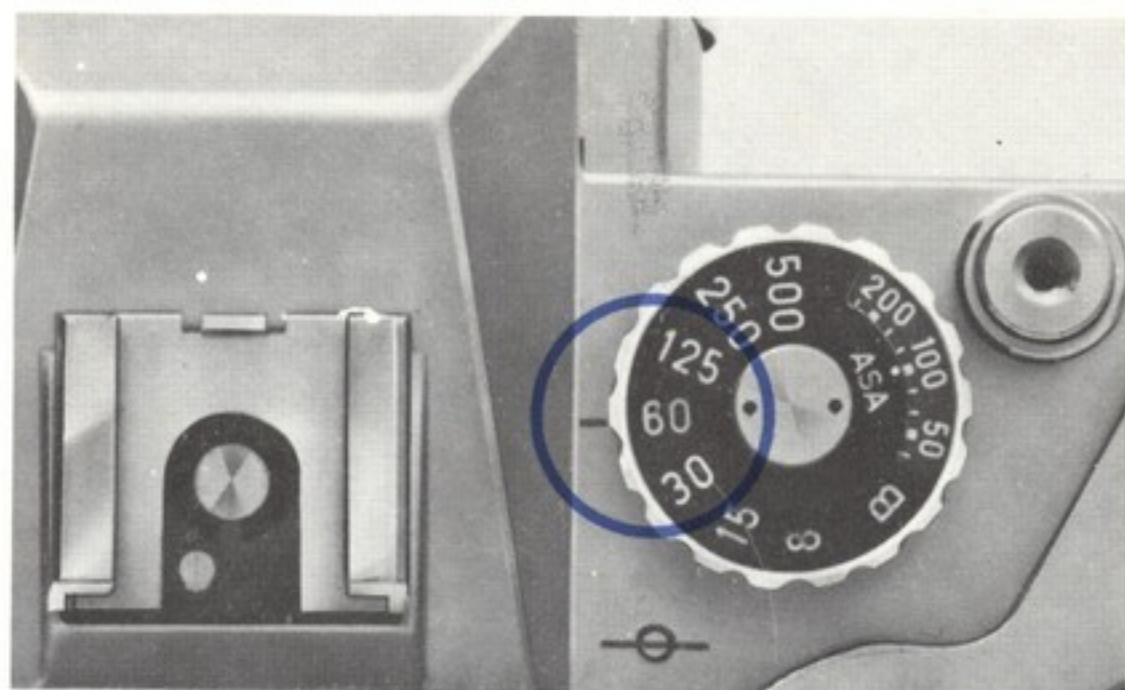



## フラッシュオート撮影

EX50mmF1.8 レンズとキャノライト D を併用すると、フラッシュオート撮影ができます。ストロボの充電電圧量と撮影距離が、信号としてメーター回路に入りますから、通常のEE撮影と全く同様の操作で撮影がすすめられます。

### 操作手順

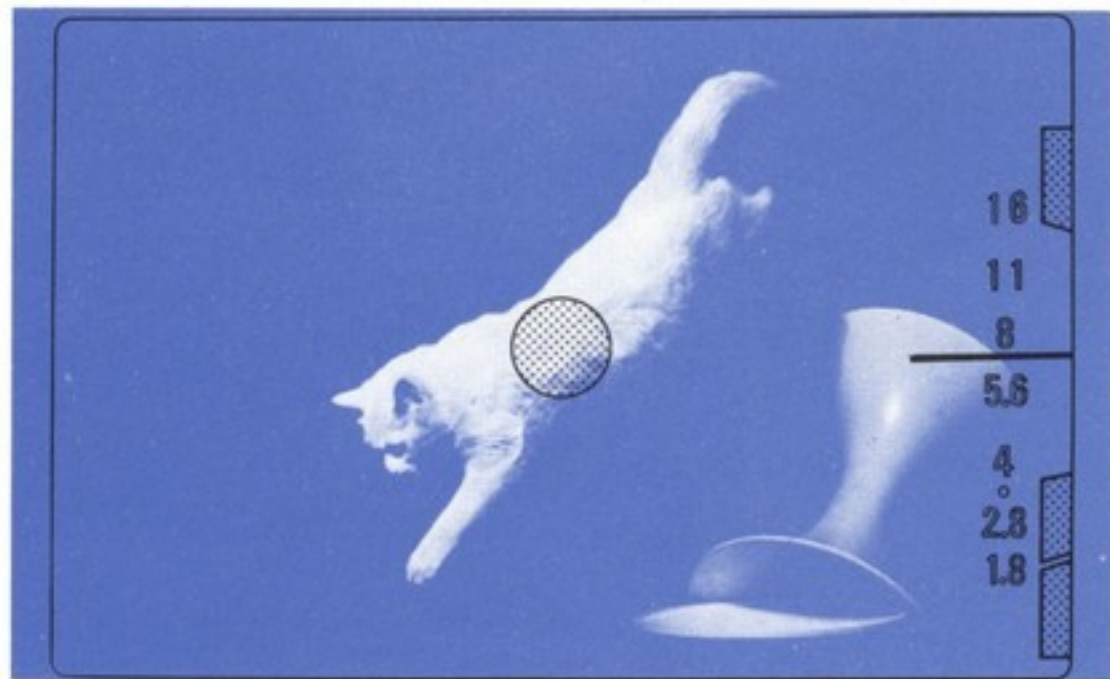
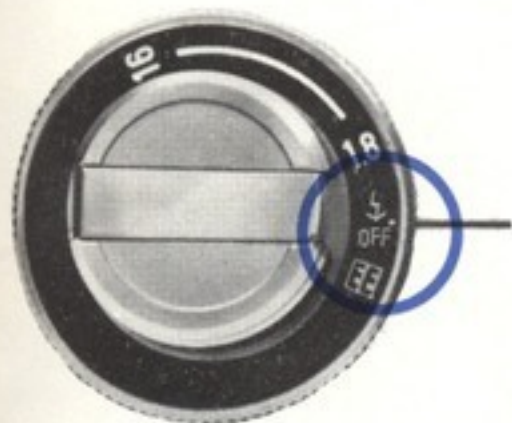
- 1 CATS 切り換えつまみを倒し、距離リングに設けられた切り欠きに噛み合うように連結します。



- 2 シャッターダイヤルを60に、EE-手動切り換えリングを  に合わせます。  
OFF
- 3 感電防止カバーをはずしてアクセサリシューにキャノライト D を取り付け、スイッチを ON にします。
- 4 ピントを合わせます。
- 5 メーター指針を確認します。

キャノライト D の発光準備が整うと、指針はEE露出範囲に出てきますので、静かにシャッターボタンを押して撮影します。指針が警告マークに入ると、出てこない場合は距離が遠すぎるか、近すぎる場合です。





※メーター指針が警告マークに入っている場合でもシャッターをきることができます。ただし、露出が不適正になりますのでご注意ください。

※シャッターボタンを押した状態では、指針は固定され適正露出を示しません。撮影直前までシャッターボタンから指を離しておいてください。

※EX50mmF1.8 レンズ以外の交換レンズではフラッシュオート撮影はできません。一般の発光器と同じ方法でご使用ください。





## 一般の発光器を用いたフラッシュ撮影

フラッシュオート撮影以外のフラッシュ撮影では、ストロボまたはガイドナンバーから絞り値を求め手動で絞りをセットし、カメラのシンクロソケットに発光器のコードを接続しておこないます。絞り計算は次の式でおこないます。

$$F(\text{絞り}) = \text{ガイドナンバー} \div \text{撮影距離}$$

シャッター スピード バルブ	B 1/8 1/15 1/30 1/60 1/125 1/250 1/500							
	FP 級	○	○	○	×	×	×	×
M 級	○	○	○	×	×	×	×	×
MF 級	○	○	○	×	×	×	×	×
ストロボ	○	○	○	○	○	×	×	×

×の部分は使用できません

- 1/60はX接点を兼用しています。
- 直結接点をもった発光器が使用できます。
- シンクロソケットはJIS-B型です。

※発光器のコードを取りつけた状態で、ホットシューの接点に手をふれないようご注意ください。またホットシューに発光器を取りつけないで使用する場合は、感電防止カバーを取りつけてください。

## キヤノライトDをキャッツ以外で使用する場合

ガイドナンバーはASA感度によって変わりますから使用するフィルムによって撮影距離と絞り値の関係も変わります。そのため、ここでは使用頻度の高いフィルム感度を選び絞りと撮影距離の組み合わせを示してありますからご利用ください。たとえば、ASA100のフィルムで撮影距離が2mであれば絞りをF4とF5.6の中間にします。逆に絞りを先にしても結構です。

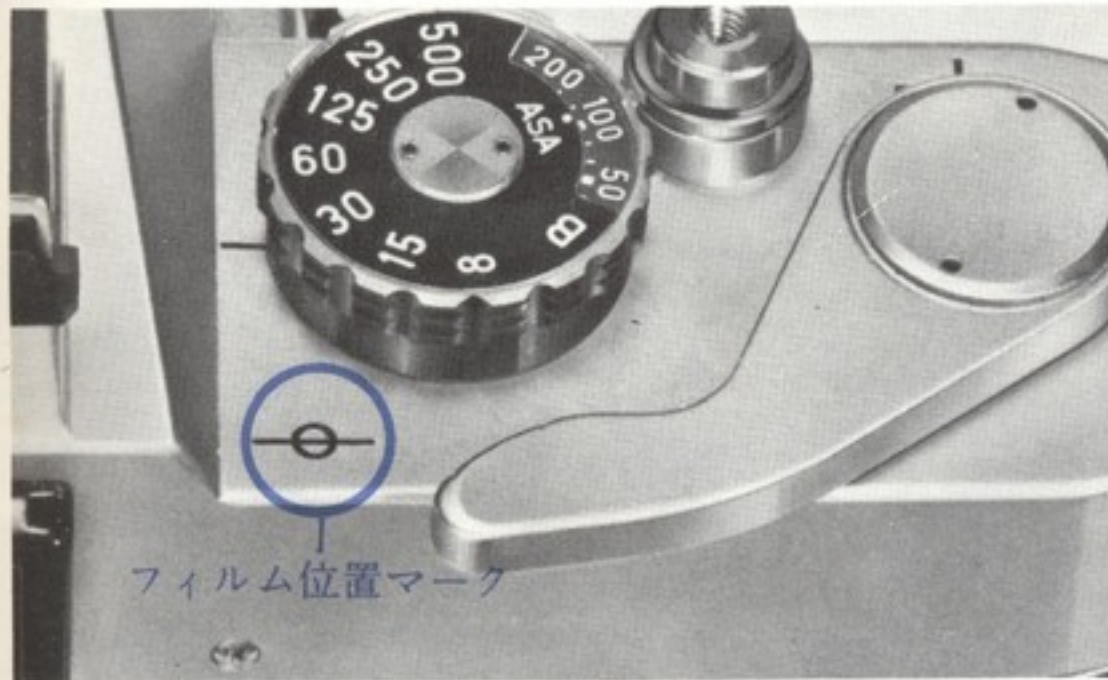
キヤノライトDのガイドナンバー換算表（単位：m）

パイロットランプ点灯直後でも、適正露出で撮影できます。

	絞	り	3.5	4	5.6	8	11	16	
撮影距離 (m)	(ASA100)	3		2	1.5		1	0.8	0.6
	(ASA200)			3	2	1.5		1	0.8
	(ASA 80)			2	1.5	1	0.8	0.6	
	(ASA 25)	1.5		1	0.8	0.6			

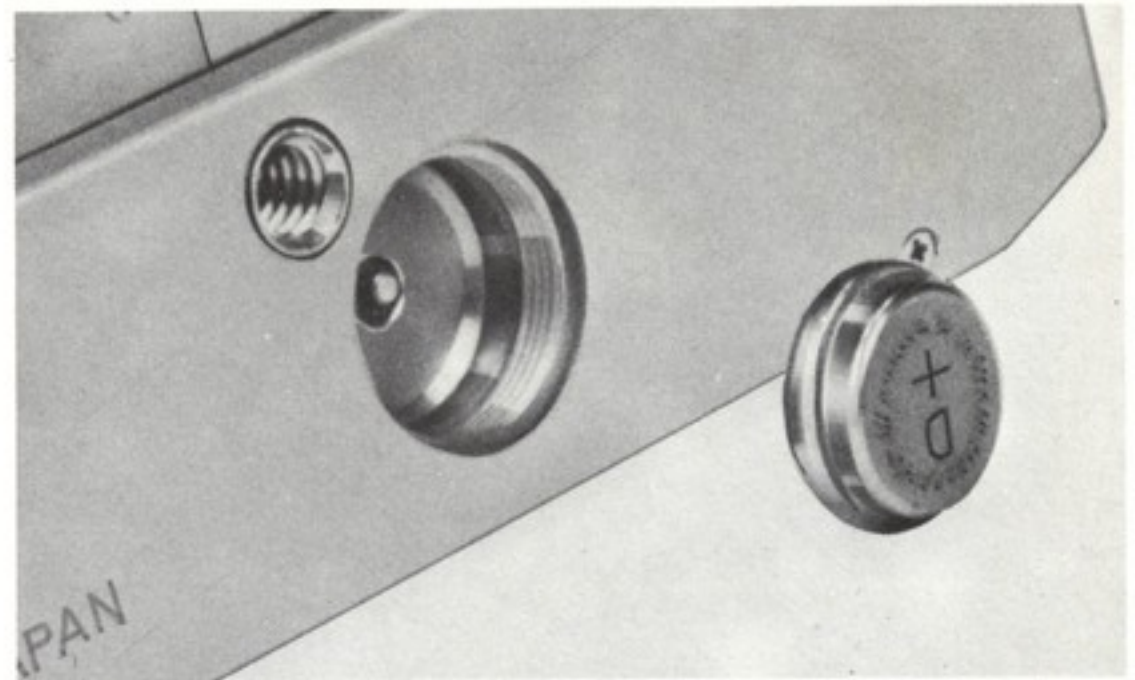
※ EX 35mm F 3.5 レンズを使用する場合は、周辺的光量が多少不足になりますが、実用上さし支えありません。





### フィルム位置マーク

レンズの距離目盛は、フィルム位置から測定した距離が目盛ってあります。したがって、実測によってピントを合わせる場合には、フィルム位置マークから測って、その距離をレンズの目盛にうつします。

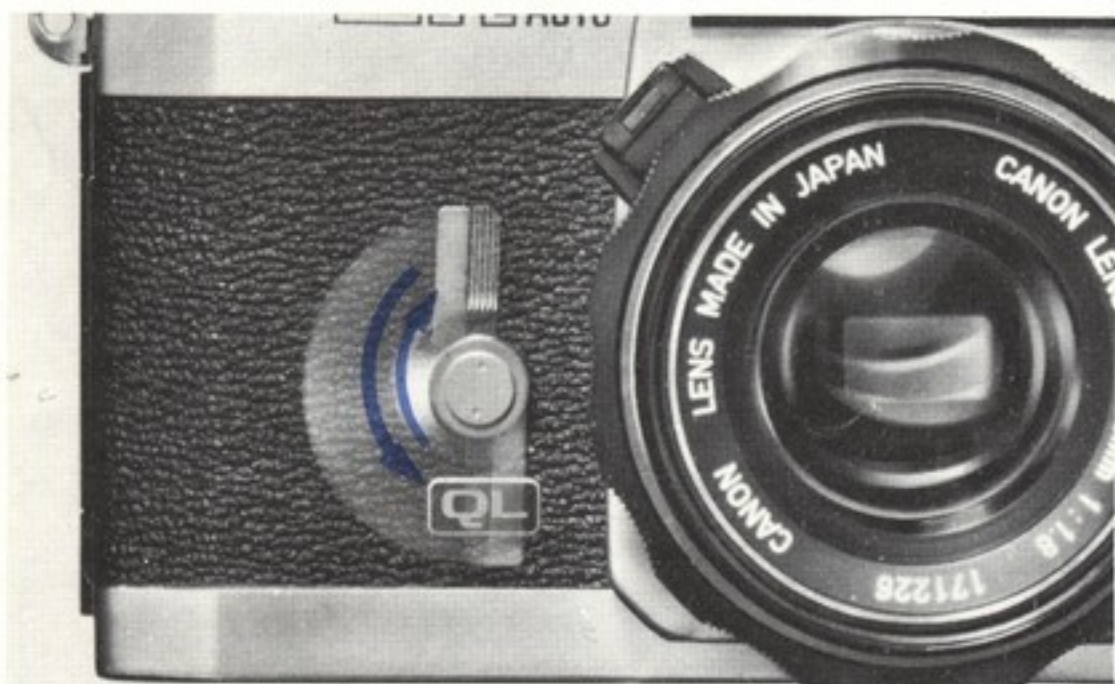


水銀電池は JIS (日本工業規格) H-D 型 1.3V 1コ使用。米国製 MALLORY PX-625, EVEREADY EPX-625 に相当し、約 1 ヶ年の使用に耐えます。

- 使用、不使用にかかわらず 1 年経過後は新電池と交換してください。
- カメラの不使用时には、水銀電池は抜き出しておいてください。
- 撮影後は、EE 一手動切り換えリングを OFF にセットしておくことをおすすめします。

水銀電池をお求めの際は、使用済みのものをカメラ店、電気店にお持ちください。絶対に捨てないでください。

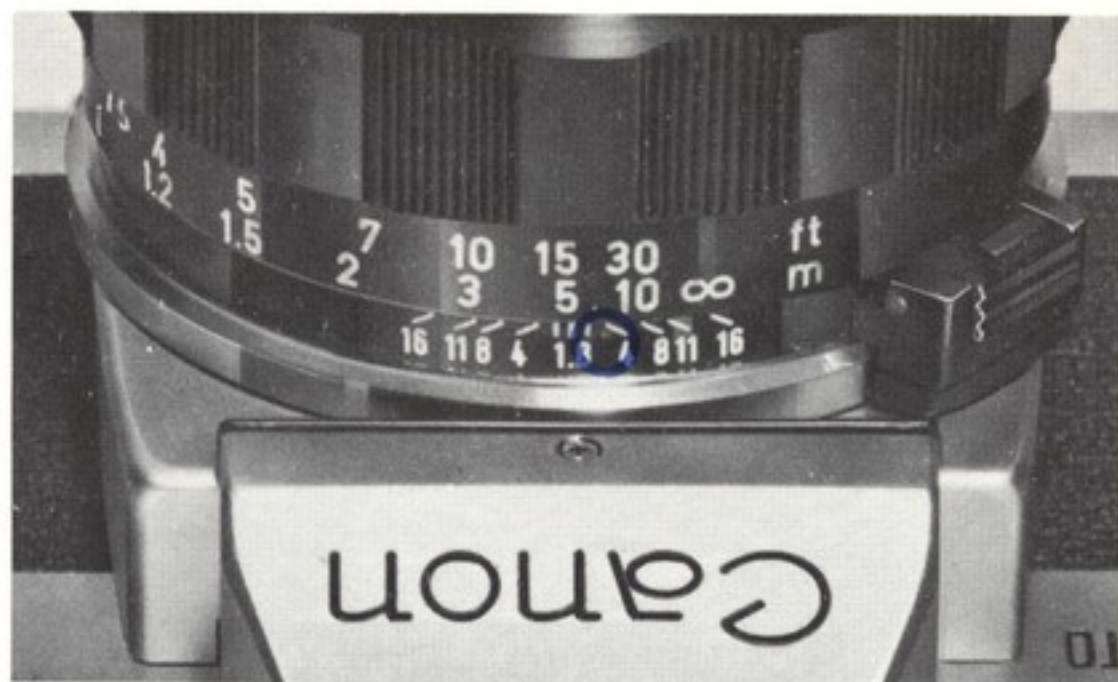




シャッターを巻き上げます。

セルフタイマーレバーを矢印方向に回し、シャッターボタンを押してください。

- 約 10 秒後にシャッターが作動します。
- セルフタイマーレバーは必ず一杯に巻き上げてください。
- シャッターの巻き上げを忘れ、セルフタイマーのみを巻き上げてシャッターボタンを押すと、セルフタイマーだけが作動して、シャッターが切れませんからご注意ください。
- 必ずファインダーカバーをしてください。



赤外指標（赤外マーク）〈EX 50mmF1.8 の場合〉

赤外撮影のときは、ピント位置が普通撮影よりも多少ずれますから修正しなければなりません。

まず普通にピントを合わせます。その距離目盛を赤外指標の赤点に合わせます。

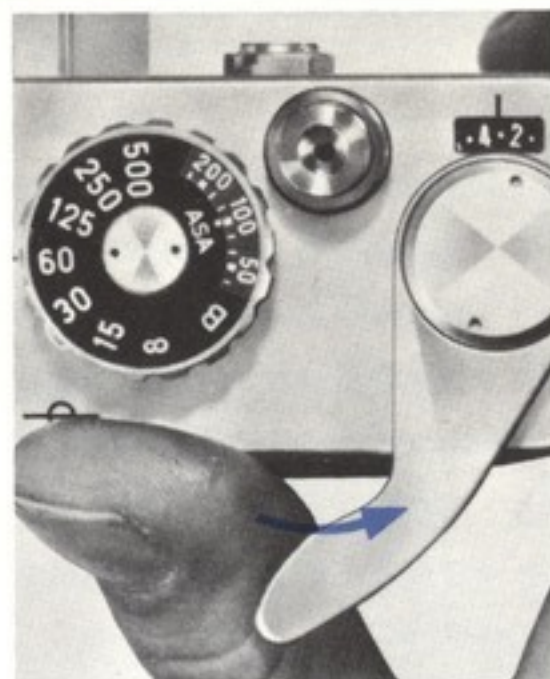
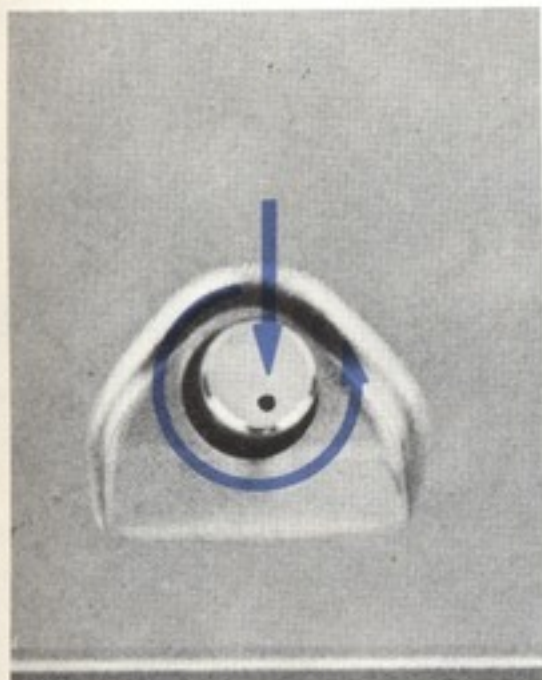
たとえば、ピントを合わせて距離目盛が10mとすると、この10の目盛を赤点の位置までずらせばよいわけです。

#### ●赤外指標

赤外指標の位置は  $800\text{m}\mu$  程度の波長に最大感度をもつフィルムと赤外フィルター（たとえばコダックIR 135フィルムとラッテン87フィルター）を用いる場合を標準にして目盛ってあります。



## 二重露出のしかた



キャノン EX AUTO は通常の手扱いは二重露出防止になっていますが、必要に応じてつぎのようにすれば二重露出撮影ができます。

- 1 第1回目の露出が終わったら、巻き戻しボタンを押し込みます。
- 2 巻き戻しボタンの指標を見ながら、巻き戻しクラックでフィルムを巻き戻し。
- 3 指標が7/8回転したならば巻き戻しを止めます。
- 4 ついで巻き戻しクラックを軽くおさえたまま、レバーの巻き上げをおこない、巻き戻しクラックに抵抗を感じたならばいったん巻き戻し操作をやめます。

5 それから普通に巻き上げをします。

以上の操作を繰り返すと同一フィルム面上に何回でも露出することができます。ただしフィルムカウンターは巻き上げごとに進みます。

- 巻き戻しのさい巻き戻しボタンが7/8回転を越えないことが大切です。



# キヤノンフィルターのおすすめ

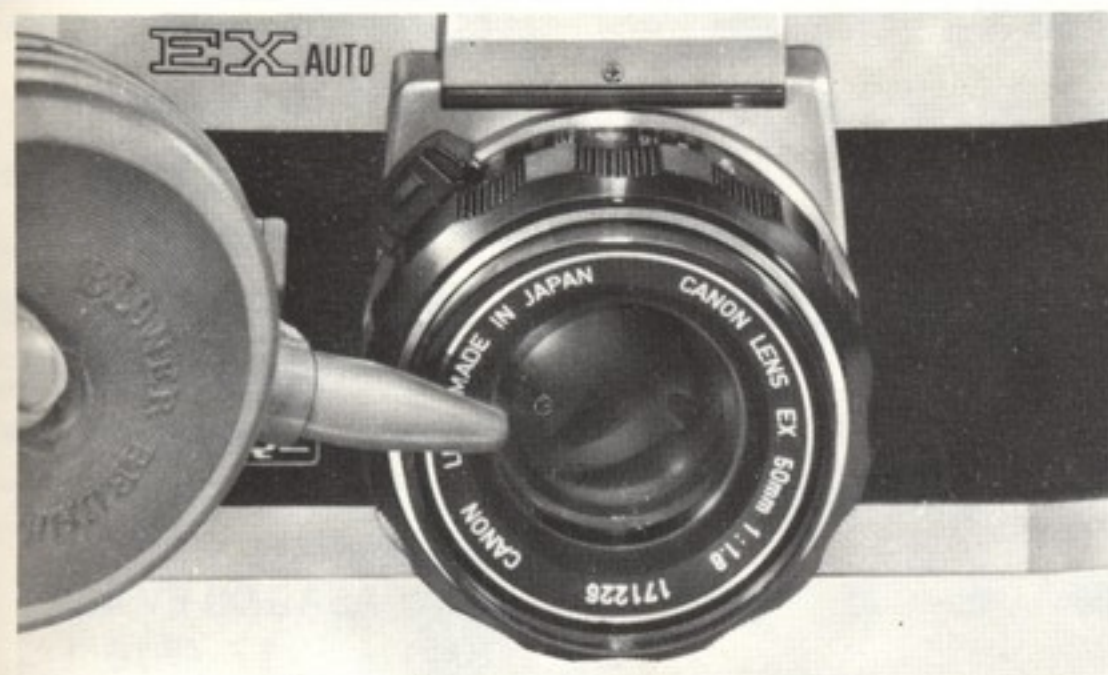
種 類	フ ィ ル タ ー 効 果
UV (SL 39・3C) 黒白、カラー共通 Y 1 (SY 44・2C) Y 3 (SY 50・2C) G 1 (MG・55C) O 1 (SO 56・2C) R 1 (SR 60・2C) 黒白、赤外共用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紫外線だけを吸収し、各色光には無影響です。海浜、高山などの紫外線の多い所では特に有効です。カラー撮影の常用フィルターとしてもおすすめします。</li> <li>・黒白フィルムに利用して、写すもののコントラストを強めます。海の色を整えたり、青空をおさえて白雲を浮き出させます。赤や黄色は多少明るくなります。</li> <li>・赤が極端に白くなるのを防ぎ、空や顔を適当な明るさの調子にし、新緑などの明るさもそのまま表現します。</li> <li>・青色はかなり暗く、黄や赤が見た目より大分明るくなります。コントラストを強調し遠景には特に有利です。</li> <li>・コントラストを強調し、場合によっては白昼の調子も夜景に近くなります。赤外フィルムに併用するフィルターでもあります。</li> </ul>
スカイライト } ND4 ND8 } 黒白、カラー共用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青空や木陰の色を自然に近づける作用をします。</li> <li>・ND4は1/4、ND8は1/8に光量を減じます。カラーの色再現性には全く影響がありません。</li> </ul>
カラーコンバージョンA (12相当)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タングステンタイプフィルムの転換用。</li> </ul>
カラーコンバージョンB (12相当)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デイライトタイプフィルムの転換用。</li> </ul>
カラーコンバージョンA 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曇天用。</li> </ul>
カラーコンバージョンB 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝夕用。</li> </ul>
カラーコンバージョンA 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルタイプフィルムの曇天用。</li> </ul>
カラーコンバージョンB 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人工光フラッシュ用。</li> </ul>

48 mm (EX 50mm F1.8, EX 35mm F3.5)用 62mm (EX 95mm F3.5) 用 72 mm(EX 125mm F3.5) 用ねじ込みフィルターが各種用意されており、黒白フィルム、カラーフィルムに対してそれぞれ特有の効果をあらわします。

\* 62mm, 72mmはUV, SKY, Y3, R1, CCA12, CCB12, ND4, ND8 の8種類です。

キヤノン EX AUTO は、TTL 方式ですから、露出倍数の補正は全く必要ありません。撮影効果を、より高めるキヤノンフィルターを、ぜひお備えください。





**カメラの保管：**カメラは湿気や埃を嫌います。長い間しまい込んで放置しておくと、シミや錆を生ずることがあります。むしろ、しばしば使用して外気に触れさせる方がよいのです。カメラの不使用时には電池は必ず抜き取っておいてください。

**カメラの手入れ：**野外で使ったカメラは塵埃がつきやすく、また雨の日や海辺で使ったあとは、気付かなくても水滴や塩分を受けてシミや錆を生じたり、レンズのヤケや腐蝕をおこします。そのようなときには柔かい刷毛で埃を払い、乾いた柔かい布で丁寧に拭いてください。

レンズにはなるべく手を触れない方が無難で、ゴム球付きのブロワーで吹き飛ばすか、柔かい刷毛で軽く払う程度にすることをおすすめいたします。やむをえないときは洗いさらした柔かい清潔な布を棒に細く巻き、先端にわずか

湿る程度のアルコール(エーテルを少量まぜればなお可)をつけ、レンズの中心から外側に渦巻きを描くようにして軽く拭きます。強く拭いたり、埃の付いているまま拭くとかえってキズを付けますから注意が大切です。

カメラを海中に落としたときは、ほとんど修理不可能になります。この場合はカメラ材料店もしくは当社サービスステーションにご相談ください。

カメラやレンズの紛失、盗難に際しては警察関係の届け出のほか、最寄りのカメラ材料店にご相談ください。店ではわずかの費用で全国の業者に連絡し、品物の発見にご協力申し上げることができます。カメラやレンズの番号はいつでもわかるような心づかいをおすすめします。極寒地では、カメラを撮影時以外、直接外気に触れさせないように保護し、また手早く撮影を済ませるのが望ましいことです。そうすれば機能を落とさずに済みます。撮影に取り出す場合、除々に外気に触れさせないと水分の凝結でレンズが曇り、撮影できないことがあります。カメラを高温場所に放置しないようご注意ください。たとえば車のリヤウインドウやトランクの中では時に60℃をこえることがあります。カメラ故障の原因になりますから絶対にさけてください。

キャップをはずしたままカメラを直射日光にさらさないでください。フィルムにかぶりを生じ、またミラーアップの際シャッター幕に焼け穴ができます。



# キヤノン EX AUTO の主要性能

型 式：35mmフィルム用TTL式 EE 一眼  
レ フレックスカメラ

レ ン ズ：標準：EX 50mm F1.8 (4群6枚  
構成) 画角 46° コーティング;ス  
ペクトラ  
広角：EX 35mm F3.5 (5群6枚  
構成) 画角 64° コーティング;ス  
ペクトラ  
望遠：EX 95mm F3.5 (4群6枚  
構成) 画角 26° コーティング;ス  
ペクトラ  
望遠：EX 125mm F3.5 (5群7枚  
構成) 画角 20° コーティング;ス  
ペクトラ

レ ン ズ 交 換：主光学系の後群 (2群3枚) を残  
す前群交換式

フ ァ イ ン ダ ー：空中像式 (マツト面をもたず明  
く鮮明) / ペンタプリズム使用の  
アイレベル式 / 視度補正レンズに  
より視度補正可能 / アングルファ  
インダーA2取り付け可能 / ファ  
インダー内表示 (EE 露出計指針、  
絞り目盛、露出警告マーク) / 倍  
率 50mm のとき 0.9X

距 離 計：プリズム スクリーン距離計内蔵  
ミ ラ ー：ノンショック クイックリターン  
ミラー

シ ャ ッ タ ー：倍数系列 1/500~1/8 秒等間隔  
目盛 BX (1/60秒) 1 軸不回転  
ダイヤル式フォーカルプレーンシ  
ャッター

EE 露 出 機 構：シャッター優先式で絞りに連動す  
る CdS EE 露出計内蔵 JIS H-D  
型 1.3V 水銀電池 1コ使用

EE - 手動切り換え：EE 手動切り換えリングにより手  
動絞り撮影可能

測 光 範 囲：F1.8 レンズで ASA 100 EV 4.75  
(F1.8 1/8秒) ~ EV17 (F16 1/  
500秒) F3.5 レンズでは ASA100  
EV 6.75 (F 3.5 · 1/8秒) ~ EV17  
(F 16 · 1/500秒) ASA 25~800  
の感光度をもつフィルムが使用可能

シンクロフラッシュ：X接点 FP級 M級 MF級 スピ  
ードライトに同調可能  
JIS-B 型ターミナル

内蔵セルフタイマー：シャッターボタンで始動

巻 き 上 げ レ バ ー：1 作動 174° 回転レバー 小刻み  
巻き上げ可能

フ ィ ル ム 装 填：キヤノンの開発による QL 機構を  
備えた簡易迅速装填方式 / 巻き戻  
しクランクを引き上げる裏蓋閉式

フ ィ ル ム 枚 数 計：自動複帰順算式

大 き さ ・ 重 量：143 × 92 × 84 mm/900g  
(EX 50mm F1.8付)

その他各種安全機構 アクセサリー完備



## アクセサリ

キヤノンEX AUTOの撮影を、より広範にするアクセサリをご活用ください。

### ●交換レンズ

広角 EX 35mmF3.5 (フード・ケース付)

望遠 EX 95mmF3.5 (フード・ケース付)

望遠 EX 125mmF3.5 (フード・ケース付)

### ●アクセサリ

フィルター 48mm 各種

62mm 各種

72mm 各種

48mm クローズアップレンズ 240,450

キヤノンレリーズ30

キヤノンレリーズ50

キヤノライトD

アングルファインダーA2

アングルファインダーB

視度補正レンズ

アイカップ角型

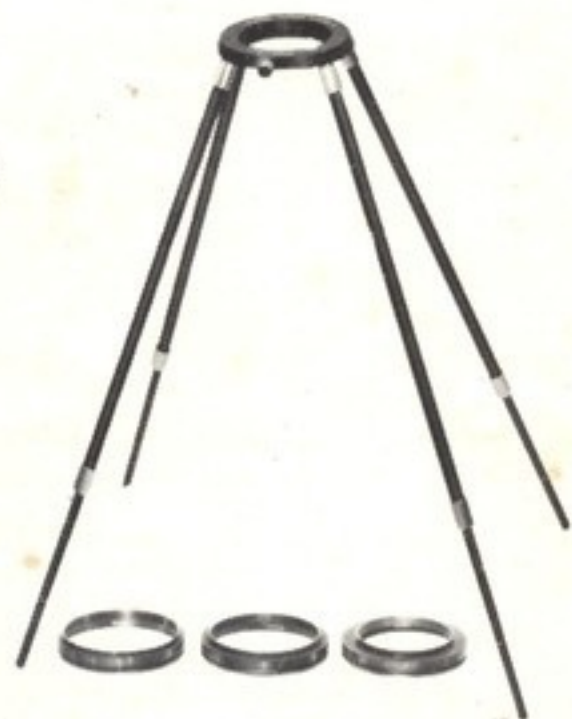
マグニファイヤー S

マグニファイヤーアダプター R

ハンディスタンドF (一式)

コピースタンド4 (一式)

カメラホルダーF2





# Canon

## キヤノン株式会社 キヤノン販売株式会社

〒108 東京都港区三田3-11-28  
カメラ販売企画部((03) 455-9353

### サービスステーション

札幌	札幌・(060) 札幌市中央区北三條西4-1 (第一生命ビル4階)	(011) 231-1313
仙台	仙台・(980) 仙台市一番町1-1-30 (やまと生命仙台ビル6階)	(0222) 66-4151~7
新潟	新潟・(950) 新潟市東大通1-4-1 (マルタケビル7階)	(0252) 43-2111
東京	東京・(104) 東京都中央区銀座5-9-9	(03) 573-7834
横浜	横浜・(231) 横浜市中区南仲通り4-39 (石橋ビル1階)	(045) 211-1691
千葉	千葉・(280) 千葉市千葉港4-3 (千葉県私学会館4階)	(0472) 43-9648
大宮	大宮・(330) 大宮市桜木町4-218 (共栄ビル2階)	(0486) 41-9122
八王子	八王子・(192) 八王子市八幡町11-2 (八王子繊維貿易館)	(0426) 25-7511
静岡	静岡・(420) 静岡市鷹匠2-7-2 (静米会館1階)	(0542) 55-2241
名古屋	名古屋・(450) 名古屋市中村区堀内町4-1 (毎日会館)	(052) 581-3811
大阪	大阪・(530) 大阪市北区梅田2 (第一生命ビル)	(06) 341-9335
京都	京都・(604) 京都市中京区御池通間之町東入ル (東邦生命ビル5階)	(075) 241-0216
金沢	金沢・(920) 金沢市尾張町1-11-14 (住友生命ビル3階)	(0762) 32-1711
高松	高松・(760) 高松市番町2-17-15 (第二讃岐ビル1階)	(0878) 51-7121
岡山	岡山・(700) 岡山市平和町4-7	(0862) 22-8228
広島	広島・(730) 広島市小町2-30 (第二有楽ビル4階)	(0822) 44-4615
福岡	福岡・(812) 福岡市博多区博多駅前4-20-23 (セントラルビル1階)	(092) 411-4172